

# 大阪産業大学 学会報

58

テーマ 不確実な時代を生き抜く力



表紙 令和4年度 写真・イラストコンテスト(イラストデザイン部門)優秀賞作品  
『不確実な時代に生き抜く力』  
眞木 稜介(デザイン工学部 環境理工学科)

裏表紙 令和4年度 写真・イラストコンテスト(写真部門)奨励賞作品  
『大都会の夜に咲く花』  
吉崎 哲史(工学部 機械工学科)



## 学会報の 発刊にあたって

吉川 耕司

大阪産業大学学会 会長(本学学長)

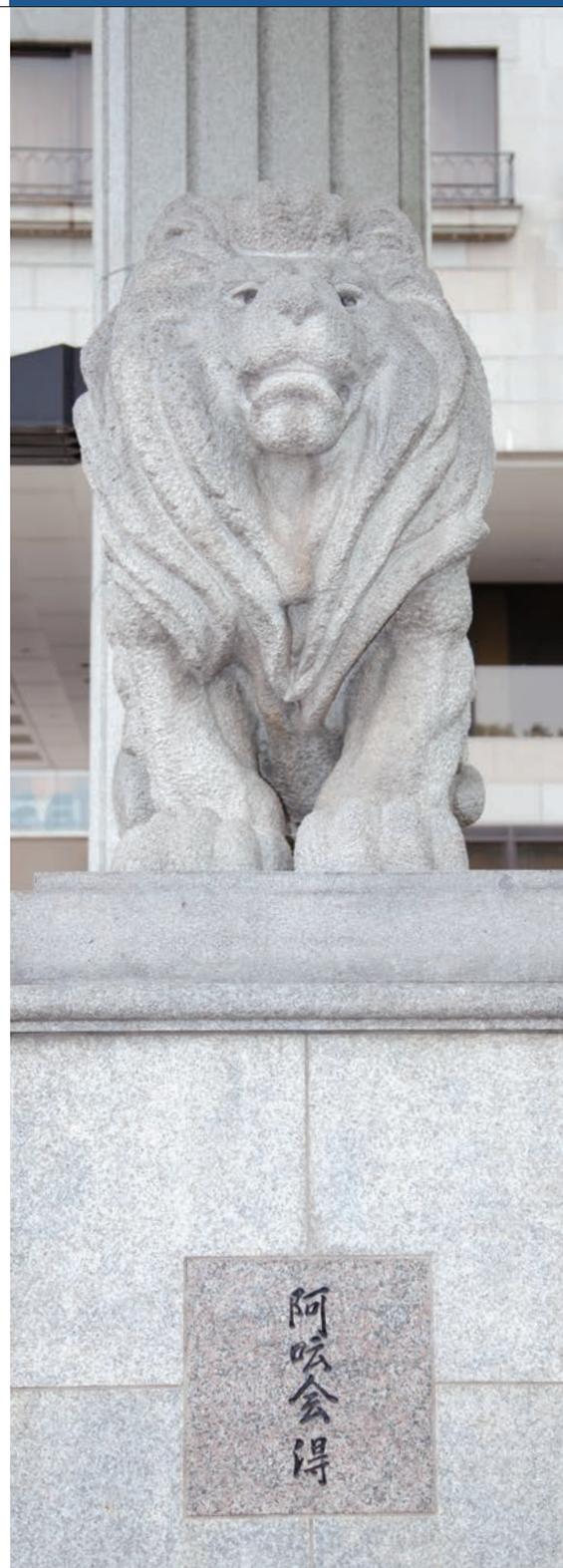
ACADEMIC  
SOCIETY  
OF  
OSAKA  
SANGYO  
UNIVERSITY  
2022

大阪産業大学学会は、論集や学会報の発行、そして講演会の開催や研究助成だけでなく、コンテストや見学会等のイベントを通して学生会員の皆さんへの積極的な還元を目指しています。

コロナ禍は未だ収束に至っておらず、学会運営も判断の難しい状況が続いておりますが、本年度は、見学会等もようやく例年通りの開催回数に近づき、来年度に向けての見学会プランニングコンテストも再開することができました。一方、学会コンテストのWeb応募や、講演会のアーカイブ配信も行われ、コロナ禍を経ての新たな情報伝達手段を、感染防止対策のねらいも含んだ形で確立することができつつあります。もちろん、出版助成や海外留学費補助も順調になされており、これらは全て、常任委員の先生方と事務局の皆さんの創意工夫、そしてご努力の賜物だと感じています。

さて、今回の学会報の特集テーマは「不確実な時代を生き抜く力」です。コロナウイルスの世界的なパンデミックや、軍事侵攻やミサイル発射など、様々な情報があふれるなかで、まずは正確な情報を見極めて、それをもとに自分の考えを持てるようになることが、これからの時代を生きるために大切なのではないかと、この発想によるテーマ設定に基づいた寄稿を、教員と学生の皆さんにお願いしたところ、8名の方々にご執筆頂きました。先生方からは、不確実な時代を生きるためには、「あえて立ち止まって、感染症に対しても正しく恐れること」、「自分自身を改めて知るチャンスであり、自分自身や人の性質を多く認識していくこと」、「スペキュラティブ・デザインの発想を持って、計画にゆとりを持たせること」、「将来は予測できないが、その時に頼りになるのが先例であり、歴史を学ぶ意義がここにある」といった示唆に富む教えを頂きました。学生の皆さんも、「3つの力(なりたい姿を描く・フレームワークを設定する・行動する)」、「3つの能力(未来を準備する・落ち着いて対処する・変化する勇氣と確信)」、「情報を得る際の2つの心がけをもとに情報を俯瞰的に見る能力」が必要だと、分析的・統括的に捉えてくれ、さらには、「日本を変えられるのは私たち若者だけだ!」との想いをもとに選挙に行くことを呼びかけてくれました。

これから我々みんな、まさに不確実な時代を生き抜くことができる人材を育てることができる大学をつくりあげていかねばなりません。今回ご執筆頂いた方々だけでなく、全ての学生の皆さんと教職員の皆さんで知恵を持ち寄り、力を合わせて歩を進めていければと思っています。大阪産業大学学会が、多様な活動を通じてこのための架け橋になることを期待しています。



# CONTENTS [目次]

## 巻頭言

### 学会報の発刊にあたって

————— 大阪産業大学学会 会長(本学学長) 吉川 耕司

### 令和5年度学会行事予定一覧

4

## 06

### 特集 不確実な時代を生き抜く力

寺田寅彦再訪

——「不確実な時代」に求められるもの (国際学部 国際学科) 湯浅 拓也 ————— 6

不確実な時代を生き抜く力

——Habit のメッセージと共に—— (スポーツ健康学部 スポーツ健康学科) 正見 こそえ ————— 8

不確実な時代を生き抜く力 (大学院 経営・流通学研究科) 張 善会 ————— 10

不安定な世界を生き抜く力 (経済学部 国際経済学科) チン ヨブン ————— 12

不確実な時代を生き抜く力 (経済学部 経済学科) 天川 樹 ————— 13

「唯ぼんやりした不安」のなかで (デザイン工学部 環境理工学科) 野澤 真瑚 ————— 14

不確実性へ備えた将来計画のあり方 (工学部 都市創造工学科) 高山 宇宙 ————— 16

不確実な時代を生き抜く力 (全学教育機構 高等教育センター) 張替 俊夫 ————— 18

## 22

### 学会主催見学会

岡山ジーンズ作り体験会 感想

長門 美佑 ————— 22

関西国際空港見学会感想文

小村 美星 ————— 24

「鈴鹿安全運転研修」感想文

高田 浩史 ————— 26

「大阪 物作り体験」感想文

宮城 陽裕 ————— 28

笹岡先生・加藤先生と行く!21世紀の芸術鑑賞巡り

田村美咲希 ————— 30

## 34

### コンテスト報告

令和4年度 企画委員長

笹岡 敬 ————— 34



## 40 | 講演会報告

生き物とつくるアート

竹重 風美 ————— 40

## 44 | 留学記

韓国留学での生活と学んだこと  
私の成長  
オンライン研修を経て

多田万里菜 ————— 44  
重松 美月 ————— 46  
土井菜々美 ————— 48

## 50 | 学術研究書出版助成本の概要

翻訳『黙想の鏡に映す イエス・キリストの祝福の生涯』  
『社会問題化する組織不祥事』の概要  
『人権法・人権政策のダイナミズム—知の民主化を目指して—』  
大阪産業大学アジア共同体研究センター(ACRC)(編)  
新型コロナウイルスと経済社会—日本、アジア、世界—

田口まゆみ ————— 50  
中原 翔 ————— 52  
窪 誠 ————— 54  
齋藤 立滋 ————— 56

## 60 | 学会報告

令和4年度 年次報告 ————— 令和4年度 常任委員長 村田 好哉 ————— 60  
令和4年度 学会活動報告 ————— 61  
令和3年度 学会会計報告 ————— 令和3年度 財務委員長 塩見 剛一 ————— 64

編集後記

令和4年度 編集委員長

藤岡 芳郎

## 令和5年度学会行事予定一覧

# EVENT INFORMATION

|         |  |  |
|---------|--|--|
| 4月      | 学会報配付<br>見学会実施予定ポスター掲示                               | 新入生・在学生に配付<br>(学内各所にも置いています)           |
| 7月      | 前期見学会参加受付  | 各学部掲示板、学内各所、学会webサイト、<br>Portal-OSUで案内 |
| 夏期休業期間中 | 各種見学会開催予定(2~3回)                                      |  |
| 9月      | 後期見学会参加受付<br>学会コンテスト募集開始                             | 各学部掲示板、学内各所、学会webサイト、<br>Portal-OSUで案内 |
| 10月     | 学会コンテスト募集締切・書類審査<br>※優秀な作品は学会報に掲載されることがあります<br>学術講演会 |  |
| 11月     | 学会コンテスト最終審査<br>各種見学会開催予定(2~3回)                       |  |
| ※適時     | 学会主催・共催講演会   |  |

※見学会、講演会等の学会企画事業については、適時、学会webサイトでもご案内します。

※コンテストの応募内容や詳しい情報は、学会webサイトや学内掲示のポスター等でご確認ください。

※各見学会は、募集人数に制限があります。詳しい内容につきましては学会webサイトやポスター等でご確認ください。

学会公式webサイト <https://as-osu.jp/>



### 大阪産業大学学会とは

「大阪産業大学学会」は、昭和39年(1964年)に設立された学術研究団体です。

本会は本学における学術・研究・教育の発展および普及に寄与し、あわせて学会会員の研究助成等を図ることを目的としています。これらの目的を遂行するため、「大阪産業大学論集」「大阪産業大学学会報」の発行、「学術講演会」等の講演会・研究会・シンポジウム・学外研修会の開催、教員会員だけでなく学生会員の研究教育活動の助成、海外留学の助成等の事業、さらには、主に学生会員を対象とする各種コンテストや様々の学外見学会を行っています。

〈学会に関するお問い合わせ先〉

大阪産業大学学会事務局(本館8階 産業研究所事務室内) 072-875-3001(内線:2815) お気軽にご連絡ください

特集

# 不確実な時代を生き抜く力

特集

Special Topics



令和4年度 写真・イラストコンテスト(写真部門)努力賞作品  
『赤富士』  
渡辺 直哉(工学部 交通機械工学科)

# 寺田寅彦再訪

## ——「不確実な時代」に求められるもの

国際学部 国際学科 講師 湯浅 拓也

2020年に入ると、新型コロナウイルスが世界中に広がり、日本でも緊急事態宣言が発せられた。これまでの社会のあり方がほとんど通用しなくなり、対面での授業を前提としてきた大学でも、オンライン授業が導入されるなど試行錯誤の毎日が始まった。

感染症に対する恐れはもちろんであるが、報道や専門家の意見など多種多様な情報があふれかえり、何が正しいことなのか、情報を見極めることができないことに恐れを感じた人も多いのではないだろうか。

本稿では、少し古くさいかもしれないが、戦前に物理学者として、また文筆家として活躍した寺田寅彦(1878-1935)の随筆を読み返しながらか、「不確実な時代」に求められるものについて考えてみたい。

寺田は、東京帝国大学教授をつとめた物理学者である。「X線による結晶構造解析」について論じ、1917年に帝国学士院恩賜賞を受賞するなど第一線で活躍した科学者であった。その一方で、第五高等学校時代に夏目漱石と出会い、俳句の手ほどきを受けた文筆家でもある。もちろん寺田が生きた時代と現代では、社会の状況が異なっている。しかし、どのような時代にあっても「不確実な時代」に立ち向かうために必要なものには変わりはないのではないか。

数多くの文章を書き残した寺田であるが、最も知られている言葉は「正しく恐れる」という言葉であろう。浅間山の噴火を目撃したことについて書いた「爆発二件」の中で、「ものをこわがらな過ぎたり、こわがり過ぎたりするのはやさしいが、正当にこわがることはなかなかむづかしいことだと思われた<sup>i)</sup>」と書いた。寺田は浅間山の噴火を「人間が爆発物で岩山を破壊しているあの仕事の少し大仕掛けのものだ」というような印象としながらも、「万一火口の近くにでもいたら…数分時間内に生命をうしなったことは確実であろう」と振り返っている。寺田ほどの科学者であっても、正確にそのものごとを捉えて、「正しく恐れる」とは難しいという述懐である<sup>ii)</sup>。

では、コロナ禍という「不確実な時代」に、「正しく恐れる」ためには何が必要なのだろうか。寺田は「科学者とあたま」と題した随筆の中で、ヒントとなるであろうことについて語っている。

いわゆる頭のいい人は、言わば足の早い旅人のようなものである。人より先に人のまだ行かない所へ行き着くこともできる代わりに、途中の道ばたあるいはちょっとしたわき道にある肝心なものを見落とす恐れがある。頭の悪い人足ののろい人がずっとあとからおくられて来てわけなくそのだいたいな宝物を拾って行く場合がある。

頭のいい人は、言わば富士のすそ野まで来て、そこから頂上をながめただけで、それで富士の全体をのみ込んで東京へ引き返すという心配がある。富士はやはり登ってみなければわからない<sup>iii)</sup>。

ここで寺田が述べているのは、科学者は「頭がいい」ということでは不十分であるということである。つまり、科学者は「取るべき道を誤らないためには前途を見通す内察と直観の力」を持たなければならないが、同時に日常茶飯事な出来事の中にも、不可解な疑問点を認めて「その闡明に苦吟すること」が必要であると語っている。「頭のいい人」は、あまりに「頭の力」を過信する恐れがあり、自然が私たちに表示する現象が自分の頭で考えたことと一致しない場合に「自然のほうの間違った」かのように考える恐れがあるとのことである。

この文章は科学者のあるべき姿について語った文章であるが、「不確実な時代」に大学で学ぶ私たちにとっても参考になる言葉である。科学が発展した現代では、「頭のいい人」がその知識や技術を活用して、「不確実な時代」にあっても将来に対する見通しを立てることも可能であろう。また、人工知能(AI)などの最新のIT技術を活用して、さまざまな社会課題に解決策を見いだすこともできるだろう。

しかし、寺田の文章を読み直していると、何も「頭のいい人」になることがすべてではないように思われる。寺田の言う「頭の悪い人足ののろい人」のように、わき道にそれながらも、大切なものを拾って確実に歩むということも同時に必要ではないか。

コロナ禍という「不確実な時代」だからこそ、あえてわき道を進んでみたり、途中の道ばたで立ち止まってみることも必要なのではないか。そうすることで感染症を「正しく恐れる」ことができるようになり、あふれかえる情報に惑わされることなく、大切なものを見つけることができるかもしれない。

- i 寺田寅彦「爆発二件」小宮豊隆編『寺田寅彦随筆集』第五巻、岩波書店、2013年、258頁。
- ii 「正しく恐れる」という言葉については、いくつかの解釈が存在している。
- iii 寺田寅彦「科学者とあたま」小宮豊隆編『寺田寅彦随筆集』第四巻、岩波書店、2013年、203頁。

# 不確実な時代を生き抜く力 —Habit のメッセージと共に—

スポーツ健康学部 スポーツ健康学科 准教授 正見 こずえ

## 前置き

「不確実な時代を生き抜く力」という大変壮大なテーマです。人それぞれの経験、知識、性格、価値観、置かれた環境によってテーマのとらえ方は全く異なると思います。賛否両論あることは承知の上で、一個人の考える「不確実な時代を生き抜く力」について記載することをご了承ください。

## 本題

2022年4月、人気アーティストSEKAI NO OWARIが発表した「Habit」は、耳に残るメロディと数多く韻が踏まれ聞き取りにくく何度も聞きたくなる歌詞、そして何よりも強く印象に残る特徴的なダンスが話題になりました。その歌詞は、人を分類したがる若者に向けた優しさを込めたメッセージがテーマだそうです。

君たちったら何でもかんでも

分類、区別、ジャンル分けしたがる

ヒトはなぜか分類したがる習性があるとかないとか

この世の中2種類の間人間がいるとか言う君たちが標的

持つてるヤツとモテないやつとか

ちゃんとやるヤツとやってないヤツとか

隠キャ陽キャ？

君らは分類しないとどうにも落ち着かない

気付かない本能の外側を

覗いていかない？ 気分が乗らない？

ただその習性に喰われないで

そんなHabit捨てる度 見えてくる君の価値

俺たちだって動物

故に持ち得るOriginalな習性

自分で自分を分類するなよ

壊して見せるよ そのBad Habit

SEKAI NO OWARI「Habit」の歌詞を抜粋

「Habit」が送るメッセージについて解釈を試みました。

「他人や自分自身のことを分類し、カテゴライズすることは、対象を「こんな人」と決めつけ、それ以上を知ろうとしない悪い習慣ではないでしょうか。もし分類、区別、ジャンル分けをしなければ、他人や自分の「違う一面を知ることができたり」、「潜在的な力に気付いたり」、人や自分の成長に繋がるような良い発見ができるのではないのでしょうか。

もっともっと深い意味があるのかもしれませんが、こんな感じに捉えられました。

確かに、凶星を突かれた時の逃げ道や、自信がない自分に保険を掛ける時に使う「だって、どうせ、でも」、その後が続く「自分は、こうだから。。。」「あいつは、あ〜だから。。。」、まさに無意識で使っています。使ったことのない人がいたら、素晴らしい人格なのだと思います。「Habit」のメッセージは最もであり、理解できます。しかしながら、完璧な人間なんてほぼいなくて、大人も子供も自分の行動や気持ちに逃げ道をつくりながら、言い訳をしながら、各々の生きやすい人間関係や生活環境を探りつつ、日常生活を成り立たせているのではないのでしょうか。。。Bad Habitかもしれませんが、日常には切っても切り離せない習慣だと思ったりします。

さてこの壮大なテーマ、「不確実な時代を生き抜く力」に「Habit」を寄せていきます。近年、当たり前が当たり前でなくなり、いろいろ諦め、妥協しながら進むことに慣れてきている今日です。そんな不確実な時代を生きることは、前向きにとらえれば、自分の新たな一面を知るチャンスだと思います。自粛、制限、非対面、延期、中止、忍耐、孤独、怠慢、逃避、失望、突きつけられた現実を前に、良くも悪くも自分自身を知るきっかけになったのではないのでしょうか。これまでの経験から分類、区別、ジャンル分けした自分を超えて、新しい自分自身の素質、癖、性質を見つけるきっかけになった人もいます。はたまた「やっぱり自分は〇〇なんだ。。。とこれまでの自分がさらに確信に変わっ

たかもしれません。

生きていれば誰しも、判断を余儀なくされたり、ひどく困ったり、つらい場面があります。その度に、その場を離れるのか、環境を受け入れるのか、自分がどうすべきか、考えることでしょう。考える時にはきっと皆、逃げ道をつくり、言い訳しながら、自分自身を守りつつ、進む方向を選択すると思います。判断の要因になるのは、自分自身の得意不得意や好き嫌い、これまで経験し作り上げてきた自分のタイプやジャンルだったりします。分類区別はBad Habitかもしませんが、人や自分を知り、各々の持ち得るOriginalな習性を多く探し見つけることは、「不確実な時代を生き抜く力」の一つになると思いませんか？

また「どうせ自分には無理。。。と確信してしまった苦手なジャンルは、自分一人で乗り越えることを諦め、それを得意とするジャンルの人の力を借りれば解決するかもしれません。一方で、困っている誰かに自分の得意が活かせる時は、自分の力を使ってもらいましょう。人や自分の区別、分類した苦手なジャンルもそれぞれを受け入れ、助けを求めることで、乗り越えることができるのではないのでしょうか。

不確実な時代、急変する社会情勢、自分自身を改めて知るチャンスです。自分自身や人の性質を多く認識していくことが「生き抜く力」に繋がると思います。身の回りに起きた躓きや失敗は、自分のOriginalな習性が生むものだと諦め、受け入れてみてください。受け入れる度に新たな自分の習性を認識し、自分の苦手を諦め、人の助けを活用すれば、きっとどんな時代も生き抜いていけるのではないのでしょうか。

# 不確実な時代を生き抜く力

大学院 経営・流通学研究科 張 善会

## 1. 自己紹介と経緯

2020年4月から、大学院博士後期課程に進学しました。現在はD3で博士論文の仕上げに取り組んでいます。私は中国・山東省の出身です。日本を留学先に選んだ理由は、日本のアニメや漫画を通じて、日本文化に関して興味があったからです。そこで、2012年頃から日本語を学習し始めました。両親は私の人生にとって日本留学はとても良い経験になるだろうと思い賛成してくれました。

2014年4月に、大阪産業大学の経営学部に入學しました。私は大学を卒業してすぐに大学院に進学しました。私は旅行が大好きで、卒業研究の題は「なぜ内モンゴルの魅力を感じない人が多いか ―内モンゴルの観光業を4Psの視点から調査―」でした。20世紀のツアー、団体観光中心のマーケティングから、現在の多様な個人中心の観光に対応できるマーケティングまで環境が変化しています。そこで、修士から新たな価値共創のアプローチで観光マーケティングについて研究を開始しました。

## 2. 研究活動

私は藤岡芳郎研究室に所属しています。私のゼミは毎週おこなわれます。藤岡先生はゼミ生各自が関心のある研究テーマについてコミュニケーションしながら進めて行きます。藤岡ゼミの大きな魅力は学問的な理論と実務の両方について研究できることです。

社会科学は時代とともに前提となる状況が大きく変化します。20世紀の工業社会のもとで発展した社会科学は経済学の強い影響下で進展しました。経営学やマーケティングも経済学の影響を強く受けています。20世紀は製造業や経営者の立場から商品であるモノを大量に効率的に市場に届けることを中心に考察されてきました。

しかし、21世紀に入りICTなどの新しい技術の進展とともに、生活時空間で企業と消費者が簡単に繋がれる時代になりました。現在は、サービス社会と呼ばれるように、製造業がサービス化する時代です。このように環境が大きく変化しています。工業社会からサービス社会になって、さらに現在のコロナ禍で生活している人は価値観や、

考え方や、生き方なども変化しています。生活する人が変化すれば企業や社会も変化します。

このような背景から伝統的経営学やマーケティングは大きな転換期に入っています。工業社会は企業が主導する社会でした。しかし、現在のサービス社会は顧客が主導する社会です。工業社会でマーケティングはモノを中心に考察されました。モノは消費者と離れた工場であらかじめ企業が生産して市場に流通させます。

現在、ICT、ビッグデータ、AIなどのような技術が普及しています。サービス社会に入り企業は容易に消費者と直接つながりながら価値を共創できる時代になりました。このような背景から生活世界の消費プロセスが注目されています。工業社会では企業があらかじめ決めた価値を市場に届けるために考察されました。現在では消費者が生活世界で決める価値が重視されています。社会の豊かさ、企業の利益を追求することから、消費者個人の幸せが重視される時代になりました。

このような背景から私の博士論文の問題意識は観光を対象としたマーケティングについて考察することです。近年、観光マーケティングは大きく変化しています。観光で重要な視点は消費者の立場で消費プロセスに注目することです。コロナ禍で既存の観光産業は大打撃を受けています。観光したいができないことから観光インフルエンサーが登場して人気になりました。このように考えるとピンチの中にチャンスがあります。現在の不安定な社会をネガティブに捉えることもできますが、視点や発想を変えるとチャンスとなる可能性もあります。私は新しいマーケティングの価値共創のアプローチで21世紀の環境下で通用する新たな理論を導出したいと取り組んでいます。

## 3. まとめ

不確実な時代に力強く自分の足で歩いていくためにはどのような力が必要でしょうか。私は不確実な時代を生き抜く力とは、第一に自分の幸せ、自分のなりたい姿を描く力、第二は自分の考えをまとめるためのフレームワークを設定する力、第三に自分で行動する力だと思います。フ

フレームワークとは自分の関心がある対象が良く見えるようにするための眼鏡のことです。そして、自分の周りの情報を集めることです。情報を集めるためには自分の幸せ、自分のなりたい姿を描くことが必要です。高いところで全体を見渡す力で自分が関心のあるテーマや対象に対して多様な情報を収集します(写真1参照)。そして、小さな変化に気が付くことが重要です。商品のパッケージがなぜ変わったのか、帰る道で新しい店がオープンしていたら、その店はなぜここに決めたのか、これから人気になれそうかなどについて考えることが必要です。誰かから与えられた課題に正しい答えを書くのではなく自分で課題を設定して自分で考えて行動する力です。このことを意識して生活すると探求心や好奇心も湧いてきます。

私は毎週金曜日に本館の4階でTAをしています。以前、ここにはテーブルなどはありませんでしたが、いつの間にか素晴らしい環境になりました。(写真2参照)。私たちの周りにはこのような素晴らしい変化が沢山あります。大きな変化に不安を抱くことよりも自分の周りの小さな変化に気が付き、自分の小さな行動から始めることが不確実な時代には求められていると思います。



▲写真1 14号館の8階からの風景  
出所：筆者撮影



▲写真2 本館の4階からの風景  
出所：筆者撮影

# 不安定な世界を生き抜く力

経済学部 国際経済学科 チン ヨブン

最近、我々はコロナウイルス、ウクライナーロシア戦争、米国の議会の襲撃事件、安倍晋三元首相の銃撃殺害事件など、さまざまな事件が起きる不安定な社会を生きています。このような不安定な世界を生き抜くためにはどんな能力が求められるのでしょうか？

このような不安定な世界を生き抜くためには、次の3つの能力が必要であると思います。まずは、「備えあれば憂いなし」の習慣です。人は生まれてから死ぬまで、幼年期、青年期、壮年期、老年期を迎えます。青年期と壮年期に一生懸命生活し、準備しなければ苦しい老年期を迎えます。一方、何を準備するのが必要なのかは、個人によって、そして与えられた環境によって異なります。しかし、いろいろな知識や能力を身につけ、未来を準備することが大切だと思います。コロナ以降の経済状況を見ると、失業率上昇と供給サイドからの問題による物価上昇が各国の経済状況を苦しめています。私たちがこのような困難な時代をどのように乗り越えるかを考えるときこそは、「備えあれば憂いなし」のことわざが浮かびます。

二つ目は「事故・事件に戸惑うことなく冷静で落ち着いて対処する」能力です。なぜなら、普通の人は戸惑うと思考能力が急激に低下します。例えば、普段、切り抜かれる逆境も過度のパニックによって正確な判断を失い、困難に落ちることもあります。コロナ以降、不況による失業や倒産による生活苦に苦しめられている人が多いです。その状況の中で最悪の場合に自殺という極端な選択をする人もいます。しかし、このような困難な状況でもパートタイムやアルバイトなどをしながら一時的に対応し、新しい仕事を探している人もいます。日常生活でも外食する頻度を減らしたり、アルバイト時間を増やしたりすることも悪くない対策だと思います。最も重要なのは、困難に対処する前向きな姿勢であると思います。

第三に、「逆境に直面するとき、変化する勇気と確信」です。おなじみのものを変えたり、過去の考えを変えたりすることには勇気と確信が必要です。勇気と確信を持つためには常に好奇心を持って新しいことを習う姿勢が必要です。経験しなかった逆境に直面した場合、普段のよう

な対処ではそれを乗り越えられません。例えば、失業のときでもすぐ雇われる仕事を見つけてその仕事ができる確信を持つことです。あることに確信を持っている人は、確信を持たない人より成功する可能性が高いです。努力のない確信だけで成功すると思うのは傲慢です。人事を尽くして天命を待つことです。

コロナ以後、個人的な不安は円安と物価上昇による収入の減少と帰国できないという問題でした。これらの不安を乗り越える解決策は次のとおりです。収入の減少は、アルバイトの時間を増やすことで解決しました。帰国問題は、能力を高めるのに時間を増やしたりリラックスする方法を見つけたりしながら解決しました。

上記の3つの能力は、不安定な世界を生きるための不可欠な能力だと思います。最後に、今日より良い明日を祈りながら、この文を終わります。

# 不確実な時代を生き抜く力

経済学部 経済学科 天川 樹

2020年3月から私たちの生活は一変した。驚異的に蔓延した新型コロナウイルスの存在である。徹底した外出自粛、マスク着用、飲食店への休業要請といった我々の生活を奪う事が起こった。収束がみえないコロナウイルスはいつ消えるのだろうか、そして私たちのマスクはいつとれるのだろうか。

さて、新型コロナウイルスが猛威を振るい、より生きにくくなったこの時代に未来を託された若者はどう生き抜いていけばいいのか。まずは若者が選挙へ参加することだろう。だがいまの世代は選挙へ行っても変わらない、政治に興味がない、政党がわからないなどと言って選挙へ行く以前の問題がある。こう発言するにも無理がないと思っており、若者が閲覧するツールに選挙関係が出てこないのである。わざわざ暑いなか街頭演説を聞きに行くのも面倒と考える人ばかりで、もう少し若者が目を向けるように工夫したらいいのではないだろうか。記憶に新しい安倍元総理が街頭演説中に銃撃される事件があった。もちろんSPが周囲を警戒しているうえで起きた出来事である。この事件は決して許されない行為であり、厳罰を下すのが妥当である。しかし犯人は安倍元総理、もしくは自民党に不満があったと考えられる。犯人は少しでも日本を変えたかったといっても人を殺めるような行為は決して許されない。

このような不確実な時代を生き抜くためには、私たち、そして日本が変わらなければ未来は明るくない。ウクライナ情勢やコロナウイルスのダブルパンチで物価が高騰しているが、賃金は何年も前から変わっていない。ただただ家計が圧迫され、結婚しても子どもが産めない、経済的に不安があるから結婚はしないといった意見が出てくる。少し前に内閣府から面白い調査結果が出た。20代男性で妻や恋人がいないのが65.8%、デートをしたことがないのが39.8%だった。理由の第1位が経済の低迷と書かれていた。この記事を鵜呑みにはしていないがほとんど正解だと思っている。こうした現状を変えられるのは若者しかない。国会で意見を出し合っている50、60代には日本を変えることができない。今まで意味のないことをだらだ

ら10年20年続けてきたのだから、この先を変えられるはずがない。消費税廃止を掲げている党もあれば、学費無償化を掲げている党もある。ぜひとも若い層は選挙に参加して、一票で何も変わらないなどと思わず投票してほしい。これからの日本を変えられるのは私たち若者だけだ！

このレポートは、選挙に行かないと本当に日本が廃れていってしまうことを伝えたく、選挙というテーマに絞って書きました。あまりにも若者が選挙へ行かなさすぎるので、このレポートを通じて全20代に届けばいいなと思います。

# 「唯ぼんやりした不安」のなかで

デザイン工学部 環境理工学科 野澤 真瑚

はじめて出会った芥川龍之介の作品はなんだったろうか。「蜘蛛の糸」か、「鼻」か。あるいは、「羅生門」だったかもしれない。いずれにせよ、私には彼の作品を暗唱することはできない。ただ、著者紹介欄に載っていた言葉が、今も頭に残っている。「唯ぼんやりした不安」。芥川は自ら命を絶ったと記述されていた。文豪である彼が遺した——文豪にしてはいささか描写がアバウトな——「唯ぼんやりした不安」の正体については、今も論争が続いている。

2022年に入って、ロシアによるウクライナ侵攻が始まった。隣国が戦争を始めたのだ。終わりの見えないコロナ禍はオミクロン株が感染拡大し、欧州を中心に新たにサル痘が流行した。加えて、熱波による山火事の多発、ロシア産天然ガスの輸入禁止に伴うエネルギー不足や経済的ダメージ。日本では元首相が選挙期間中に銃撃され死去し、イギリスでは同国史上最長の在位期間を誇った女王が崩御した。世界中が得体の知れない切迫感や何とも言えない不快感に苛まれている。我が国も、大産大生諸子も、例外ではないだろう。私は、芥川のそれと正体は一致しなくとも、同様且つ同質の「唯ぼんやりした不安」に多くの現代人が呑まれているのではないかと、特にここ最近ひしひしと感じる。

学会報58号のテーマは、「不確実な時代を生き抜く力」とされている。なるほど不確実な時代だと思う。せつかく戴いた機会なので、何がこの時代に必要なのか考えてみた。結果としてうまく思いつかなかったものの、ひとつ、特に必要性を感じたことがあったので、ここに書き留める。

それは、「情報を俯瞰的に見る能力」である。

先に述べたような時事的な情報は、最早こちらから取りに行かなくとも向こうから大量に入ってきてしまう時代となった。代表的なものは、やはりSNSが挙げられるだろう。「トレンド」や「おすすめ」として不意に自身の目に飛び込んでくる情報は新鮮で、苛烈である。学生諸子の中には、意図せずして衝撃的な画像や動画を見てしまいショックを受けたことがある者も少なからずいるのではな

いだろうか。

確かに、スピード感がある社会の中で、取り残されないように情報収集に努めることはプライオリティの高い事項である。しかしながら、摂取した情報に呑まれてしまえば、過度な共感や思考の停滞・偏りを生みかねない。実際、2001年に米国同時多発テロが発生した際には、その映像や報道に触れた人間のPTSD新規発症率リスクが増加したという研究結果がある。また、ナチスドイツが民衆の民族意識・反ユダヤ思想の高揚のために活用したことで知られるプロパガンダは、現代でも有効な手段として利用・研究されている。ウクライナ侵攻での各国の発信やトレンドを見るに、SNSは今やひとつの主戦場といえるだろう。

では、どうすればよいのか。与えられる情報の一切を拒み、世捨て人になるという選択肢もあるだろうが、これはあまりおすすめしない。私は何かしらの情報を得る、もしくは図らずしてその情報に接した場合、心がけていることがある。

1つは、「映像や画像を避ける」こと。たとえばSNSは「センシティブな画像を表示しない」「動画を自動再生しない」などの設定をする。また、ニュース速報なども、直ちに自身に影響がない場合は概要のみ把握して深追いしないように意識する。ショッキングな視覚的情報は特にメンタルヘルスへの悪影響が活字情報より大きい。また、動画などであれば、相手のペースに合わせてなければならぬため、感情にのまれやすい。あえて活字で情報を取ることで、自分のペースで精査しながら読むことができるため、心理的負荷も比較的少ないと考える。

2つ目に、「発信元の意図を考える」こと。多くの情報は、皆がSNSに投稿するように、「共感してほしい」「興味を持ってほしい」「信じてほしい」など様々な思惑や期待が回って出回るものである。その情報を鵜呑みにしたとき、発信元が得られるメリットは何か、デメリットを受けるのは誰かを考える。難しいことだが、この情報が溢れる社会において自分が信じるに値する情報か否かは、自身で決めなければならない。

この二点を統括して「情報を俯瞰的に見る能力」とした。私もこれが出来ているとはいえないが、現代を生きるにおいて必要なのは自身の意思決定であり、情報はあくまで判断材料である。ただでさえストレス社会だ。これから社会に出る学友諸子には、以上のことを頭の片隅に置いておいてくれれば嬉しい。

建学理念である「偉大なる平凡人たれ」は、高い地位や名誉を望むのではなく、人間社会に貢献することを生きがいとする人物であれという意味であると私は解釈している。「ぼんやりした不安」に包まれ、「不確実な時代」に生きる諸子が社会に貢献するための一助になればこれほど幸いなことはない。

# 不確実性へ備えた将来計画のあり方

工学部 都市創造工学科 講師 高山 宇宙

スペキュラティブ・デザインという手法をご存じだろうか。元々はイギリスのRoyal College of Artのアンソニー・ダン教授とフィオーナ・レイビー教授が提唱したもので、彼らの著書では「将来あり得るかもしれない世界のあり方を予測する」ツールである、と定義されている。現代で直面する課題ではなく、予測が難しく不確実性の高い将来における課題を見つけ、それを解決する手段としてのデザインを指している。

さて、筆者が専門領域とする我が国の都市計画・交通計画においては、急激な成長を遂げてきた20世紀とは異なり、人口減少・少子高齢化といった21世紀特有の課題に直面し、これまでの発展を前提とした計画から、縮退によって持続可能な生活圏を保とうとする方向性にシフトしつつある。他方、革新的な技術開発がもたらす発展や人間がコントロールできない地球環境の変化、社会課題の変化、地政学的リスクなど、現代では予測の不確実性を高める要素で溢れかえり、将来シナリオは一つに定まらず様々な分岐点を有している。したがって、すべての将来における課題に対応できる計画を策定することは不可能になりつつある。こうしたなか、スペキュラティブ・デザインによる個別の将来課題の予測と解決するためのデザインの提案は、不確実性の高い我が国の将来の都市計画・交通計画のあり方を考えるうえで、重要な役割を果たすことが考えられる。本稿では、将来の都市計画・交通計画の一つのシナリオとして、将来の都市デザインと新しい次世代モビリティの導入のあり方について述べる。

手始めに、現在の我が国で目指されている二つの将来都市構想について述べる。一つは、科学技術の高度化によって都市や地域の諸課題を解決しようとするスマートシティである。もう一つは、深刻化する人口減少および少子高齢化問題を踏まえ、都市の規模を縮小、集約することで持続可能な都市財政と生活水準を維持しようとするコンパクトシティである。二つはどちらも将来の都市のすがたとして紹介されるが、その対象や性質、目的、手法は大きく異なっているといえる(右図)。特に重要なのが、コ

ンパクトシティは実際の都市の空間を縮退させる動きを取るのに対し、スマートシティでは不可視の情報を拡張するために積極的な設備投資を促そうとする点にある。拡張と縮退といった原理の対立は、例えば本来縮退すべき地域に情報インフラが整備されることで居住誘導が上手くいなくなるほか、持続可能な都市財政を目指すうえで維持しなければならないインフラが増え、妨げとなる恐れがある。反対に二つの都市像が融合する場合でも、集約された都市部にのみ情報インフラの投資が進み、郊外部との格差を生じさせるといった懸念もある。

| 都市像 | コンパクトシティ  | スマートシティ |
|-----|-----------|---------|
| 対象  | 空間        | 情報      |
| 視認性 | 可視        | 不可視     |
| 原理  | 縮退        | 拡張      |
| 手法  | 計画・マネジメント | 情報統合技術  |
| 主体  | 公的中心      | 民間中心    |
| 期間  | 長期        | 短期      |

▲図：コンパクトシティとスマートシティの違い  
引用(森本章倫：コンパクトシティとスマートシティの融合に向けて、土地総合研究 第27巻 第2号, pp.10-15, 2019)

続いて、将来の交通計画が抱える課題の一つである、自動運転技術の実装について述べる。無人での走行・送迎を行う自動運転車両の社会実装は、安全性や効率性などの観点から早期実装が望まれており、技術面、運用面などで様々な課題を抱えつつも、実装化に向けた開発・検討が日進月歩の勢いで進んでいる。

そうしたなか、都市計画・交通計画の分野において課題となるのが、こういった地域への導入が適正であるか、という点である。仮にすべての地域において自動運転車を走行させた場合、市民目線ではどこに住んでいても自動車が目的地に運んでくれる、まさにフィクションの世界のような暮らしが実現できる。一方で、先述した縮退を前提としたコンパクトシティとは相性が良くない。仮にどこにいても同じ移動サービスを受けられる場合、縮退するはずの道路などのインフラを維持する必要があるため、今後さらに厳しくなると予想される都市財政を踏まえると現実

的でないといえる。さらに、現在進行形で深刻化している地方鉄道の赤字問題に対しても、自動運転の普及により公共交通離れが進み、更なる追い打ちをかけてしまうことも予想される。

重要なのは、これらの将来起こり得るかもしれない課題について、先んじて予測し影響を検証しつつ、複数のシナリオやデザインを組み合わせた案を予め準備・計画しておく、スペキュラティブ・デザインの発想をもって検討することである。将来都市構想については、スマートシティとコンパクトシティの融合を見据え、様々な将来シナリオにおける課題を予測しつつ、急変する情勢に備えることが重要である。自動運転技術についても、免許の保有状況、自家用車の所有意向、運転技術の進展など現時点では不確実性の高い要素が多いが、それらの要素について多角的に検証し、「あり得るかもしれない未来」の課題を把握することが、将来計画の上で重要な示唆をもたらすだろう。そのためにはスペキュラティブ・デザインによって得られた将来課題を踏まえ、不確実性に備えて計画にゆとりを持たせておくことも重要であるといえる。

#### 参考文献

森本章倫：コンパクトシティとスマートシティの融合に向けて、土地総合研究 第27巻 第2号, pp.10-15, 2019

# 不確実な時代を生き抜く力

全学教育機構 高等教育センター 教授 張替 俊夫

「不確実な時代」とは何でしょうか。簡単に言って、数年前には予測できなかったようなことが起こる時代のことだと考えています。近年の新型コロナウイルス感染症が引き起こした騒動がそうでしょうし、今年勃発したロシアとウクライナの紛争もそうした時代背景の中で起こりました。今回この原稿をたまたま書くことになったその日に、安倍晋三元首相の事件も起きました。安倍氏の政治姿勢は別として、今回の事件が起きたことが不確実な時代に入ったことを意味しています。

では皆さんにお尋ねしましょう。皆さんは自分自身の数年後を予測できるでしょうか。中々難しいことだと思います。その一例として、ここで私自身のことを少しお話ししたいと思います。

私は数学が専門で、数学担当として25年前に本学に着任しました。その後たまたま縁があって、数学史、特に中国数学史が専門に加わりました。写真1は2006年夏に中国で行われた国際学会に参加した時に撮ったものです。その後、この2年前から日本数学史学会の役員をしています。これらのことは、25年前には全く予測できなかったことです。



▲写真1

また大学においても、数年前に役職に就任しました。役職者の器量など全くありませんが、役職者として、入学式の壇上から新入生に向けての挨拶をした時の写真が写真2です。



▲写真2

このように全く予測できない立場に置かれることも現実にはあることです。その時に頼りにするのがこれまでの先例です。歴史と言い替えてもいいでしょう。私も大学においても、学会においても、以前のその立場の方々が、どのように活動してきたかを参考にしました。

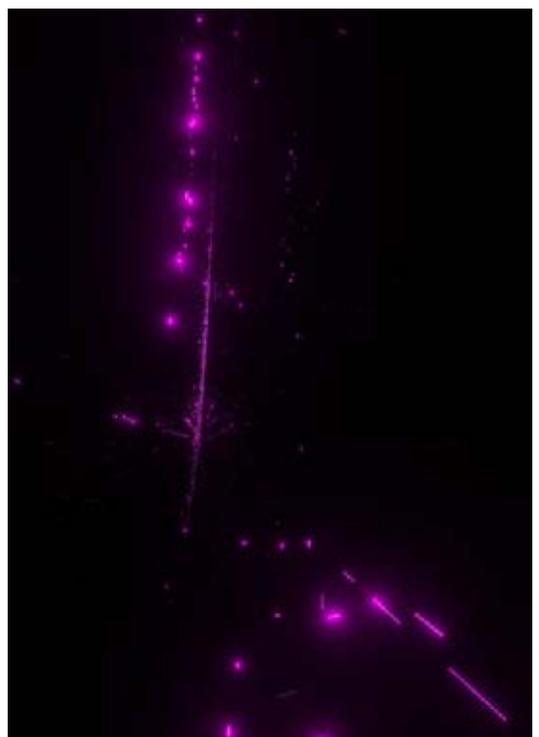
先に新型コロナウイルス感染症が予測できなかったことの一つのように言いました。しかしこれは正確ではありません。というのも、今回の新型コロナウイルス感染症が引き起こしたパンデミックによる騒動は歴史上何度も繰り返されたものと同じ特徴をもっています。例えば、ちょうど100年前に起こった「スペインかぜ」のパンデミックは今回に酷似していますし、中世のヨーロッパで繰り返されたペストも同様です。それらは数年続きますし、社会にパニックを引き起こします。フランスの作家カミュの描いた『ペスト』が世界的なベストセラーになりました。私も今回買って読みましたが、そこで描かれる世界はフィクションであるとは言え、今回の騒動を予見させるものがあります。カミュは第二次世界大戦での惨禍を念頭にして『ペスト』を描いたとも言われていますが、純粋にパンデミックを描いたとして読んでもいいと思います。やや難解な本ですが是非読んでください。

ロシアとウクライナの紛争についても私たちは大変驚かされました。しかしこれも欧州だけでも似たような先例はあります。私が想起したのは数年前に起きたボスニア紛争です。この紛争も民族間の対立を原因として引き起こされ、終結までには数年かかりました。紛争の規模は異なり

ますが、その構造は似通っていると感じました。

このように突然起こったように思える事柄でも歴史を紐解けば必ず似たような事象に突き当たることとなります。歴史を学ぶ意義はここにあります。古来語り継がれた言葉に「歴史は繰り返す」というのがあります。最初に誰が言ったかは諸説ありますが、同じような事が何度も繰り返されつつ歴史は進んでいくとの教訓です。ですから全く新しいことに見えても、歴史のどこかに似たことがあるので、歴史を学ぶ意義は大きいです。

最後に強引に話をまとめましょう。今回のテーマである「不確実な時代を生き抜く力」として、私には何が必要なのかよく分かっていません。ただ一つ、数学が専門の私が言うのも変かもしれませんが、歴史から学ぶことしかないと思っています。そのためにも、自分の専門に限らず本をたくさん読んでいただきたい。大学にいる時だからこそ読むことが出来る本があるはず。そこから、どんな時代になっても、自分の頭で考え、自分で生き抜く力が生まれると信じてやみません。

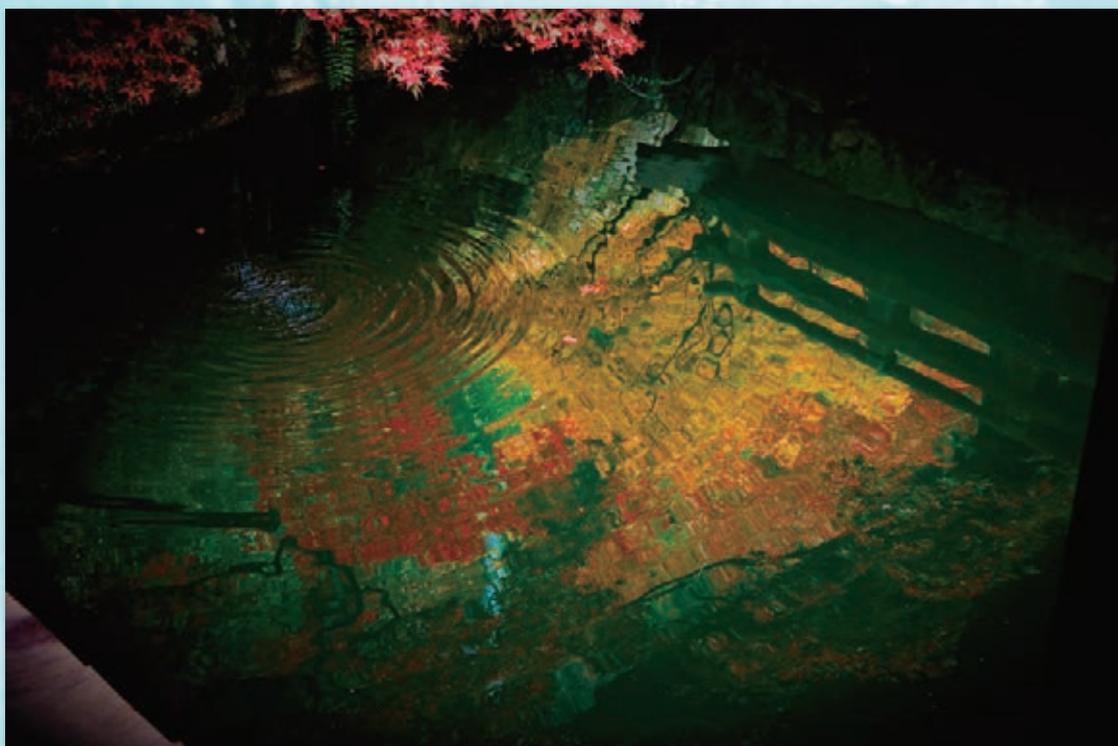


▲令和4年度 写真・イラストコンテスト(イラストデザイン部門)努力賞作品  
『未知領域』  
近藤 聖那(国際学部 国際学科)

# 学会主催見学会

学会主催見学会

Tours Sponsored by the Academic Society



令和4年度 写真・イラストコンテスト(写真部門)優秀賞作品  
『秋水』  
九里 孝行(工学部 機械工学科)

# 岡山ジーンズ作り体験会 感想

長門 美佑

9月7日、大阪、天気は曇り。

学生のうちに経験したかった一人旅の気分を少しでも味わってみたいと、大学4年生で初めて、学会主催のイベントに、友人を誘わず一人で参加してみました。

しかし、しまった。こんなに曇っているのなら、インスタントカメラではなく携帯の充電器を持って来るべきだったと、後悔。話し相手がいないと、携帯のバッテリーの減りが、早いこと早いこと。バスに乗って1時間、すでに残り50%を切っていました。

やっぱり、やめておいたほうがよかったかな。

そのまま、眠りに付きました。

目が覚めると、さっきまでの悪天候が嘘だったかのよう。あんなに分厚かった雲が去り、夏らしい青空、夏らしい緑の山が辺り一面に広がっていました。



倉敷に到着、天気は晴れ。

工房にて、デニム生地のものから覗く、藍色鮮やかなジーンズ達。ジーンズづくり体験のスタートです。

ベースは種類がいくつかあり、ワイドに広がった形のもの、細身のもの、スカート、私はデフォルトのストレートタイプを選びました。

続いて、ボタン選び。

おへそのトップボタンと、ポケット、かつて懐中時計を入れるために使われていた、という右ポケット内側のコインポケット部分の、リベット。計7つを自由に選ぶことができました。色も、赤、黄色、緑と色とりどりででした。

私は銀色系のボタンを3種選び、組み合わせることにしました。

ボタン付けは、手順を教わった後、自分で作業させてもらえました。

下にボタンを固定するための、画鋲のような留具を器具の下にセットし、上に、先程選んだトップボタン、リベットをセットします。

このとき、留具は針が上に向くように、ボタンは、柄が上に向くように注意してセットしなければなりません。

また、器具の動かし方ですが、ボタンをセットした後、ジーンズを間にはさみ、打ち込む部分を器具の中央に用意します。

そしてペダルを踏み込み、ボタンを打ち込みます。

この時、ジーンズは固定できないので、ペダルをゆっくりと踏みながら、器具に切り込まれたしるしと打ち込む位置を揃え、確認しながら、動かしていきます。

ペダルについては、ボタンを打ち込む部分の、生地が厚くなればなるほど、重くなっており、特にコインポケット部分は3枚重ねになっているため、かなり力を込めなければなりません。

感覚を例えるならば、一定のところまで行くと、残りはすっと。運動会の綱引きのような、そんな感覚でした。

そして、ネームラベル選び。

ラベルは4、50種類ほどと豊富で、何枚でも追加することができました。なので、とても、迷いました。とくに迷いました。

すると、後ろに、同じく頭を悩ませる子が。

「なんとか差別化を図りたいんです。」

私も、天邪鬼気質なので、彼の言いたいこと、すぐわかります。

後ろのポケットにもなにか付けたい、と思いましたが、聞いてみると、縫い付けてしまうことにより、どうやらポケットを開くことができなくなるそう。

けれどせっかくなので、腰部分に3枚、盛り込んでみました。

レザーのラベルを縦長に貼ったのは、私的、差別化ポイントです。



歴史館を散策し、わずか30分後、工房に戻るとジーンズはすでに完成していました。

帰り際には、差別化くんとはすっかり親しくなり、秋には、一緒にサークルを復活させよう、なんてことまでお話できました。

卒業まであと半年、残り余すことなく大学生活を楽しみたいと感じました。



携帯の充電器ではなく、インスタントカメラを持ってきてよかったし、誰も誘わないで、一人で飛び込んでみてよかった。

なにかに新しくチャレンジすることは、社会人になっても、ずっと続けていきたいと思える、とても良い旅になりました。

大阪に帰着。気分は晴れ晴れ。

(デザイン工学部 情報システム工学科)

# 関西国際空港見学会感想文

小村 美星

私は関西国際空港に行くことが初めての経験でした。そのため少しワクワクもあり、将来自分のやりたい事として興味のある航空業界を知ることの出来る機会がとても貴重な事だと思い、参加しました。

まず初めに訪れた海上保安庁では、普段では入ることの出来ない裏側に案内して頂きました。個人的に「海猿」が前から大好きでずっと画面では見ていた職業だったので、とても楽しみにしていました。ですが私は移動手段としてあまり飛行機に乗った経験が無かったので、こんなにも近くで見させてくれたことにまず感動しました。コックピットに入って実際に操縦する際に見ることの出来る景色を味わった時に思ったのは、この景色を毎回見ることができるパイロットというお仕事は本当に素敵な職業だなというのと、車の運転と一緒に一歩間違えたら大事故につながる環境だと感じました。特に災害が起きて実際に出動する場面になったら、より厳しい自然環境かつ緊迫した場面でも、安全にしっかりと目的地まで向かわなければならぬ責任が全てこの席にかかっているのだと思



うと、ボタン一つにもとても重みを感じました。そして航空機を降りる際に後ろ側から階段を使って降りたのですが、たった1メートルくらいの高さから降りるのでも少し恐怖を感じました。それに比べ、特殊救難隊の方が1番人間が恐怖を感じるという高さから降下訓練をされているのを見て、何気なくやっておられる感じがするのは普段の訓練の賜物だと感じたし、生死がかかっている災害現場で人を救うという非日常的な仕事を行うには、こういう日々の積み重ねが大切なのだと思います。また特殊救難隊の方が普段使っておられる道具を見せていただいた際には、初めて見るものばかりですべてが新鮮に見えたとし、この道具で人を救っているのだと思ったら心から尊敬の気持ちが湧きました。それからとても近くで航空機を見させて頂いた際に、普通の救助へ行く航空機でも大きいと感じたけれど、それを運ぶような航空機があると知ってとても興味深かったです。パイロットの方のお話を聞いている時に間近で航空機が動くのを見せて頂いたのですが、ついさっきまで説明を受けながら見ていた機体が実際に稼働しているのがとても不思議な感覚でした。我が国は海に囲まれているので、他国と繋がるためには必要不可欠な交通路であるし、私自身昔から夏になったら泳ぎに訪れたり、冬でも海を眺めているだけで落ち着くという癒しの場所です。そんな広くて大きい海をテロや密輸、不測の事態などから守るという難しく必要不可欠なお仕事があるからこそ、私たちは普通の生活ができていると思ったら感謝の気持ちが溢れました。

次に行かせて頂いた関西国際空港は、私自身初めて訪れました。最初見た時にまず驚いたのはその規模の大きさです。地元である島根県の出雲空港は本当に小さな空港なので、その差に驚きました。関空わくわくツアーで特に印象に残ったのは、機内食を作っておられる工場を見たことです。外側しか見ることは出来ませんでした。内側では関空に発着する全ての航空機の機内食を作っているということに驚きました。また出来た機内食を運ぶトラックにも工夫があり、回収する食器とこれからお客様に出す



ために積み機内食を2段にして分けているので、作業効率がとてもいいと感じました。そしてペット達が泊まることの出来るホテルがあるのも、日本ならではの優しさを感じて心が温まりました。今回は空港の外側を見るツアーだったので、より空港内を見てみたいという興味が湧きました。ただ見に行くだけでも価値のある場所だと思うので、近いうちに自らの足で関西国際空港を見に行きたいです。

私にとって今回の見学会は今後の就職活動に大きく影

響するような、とても学びのある時間でした。特に今回海上保安庁に見学に行かせていただいたことで、自分の長所を活かせる職業として海上保安庁でのお仕事に興味を湧いたので、今後の大学生活で何をすべきなのかが明確に見えた気がしました。今回は、普段絶対に出来ないような貴重な経験をさせていただけたことに感謝します。



(経済学部)

# 「鈴鹿安全運転研修」感想文

高田 浩史

鈴鹿サーキット内にある交通教育センターで、安全運転研修の開校式をやった後、まず始めにホンダの「フリード」という車に乗りました。受講生には車の免許を取得して間もない方や、ペーパードライバーの方、運転に慣れている方、様々な受講生がいたので、まず始めに慣らし運転を行いました。インストラクターの方のご指導の元、運転姿勢を正しく取り、前の車について行くといった、基本的な運転操作を教わりました。やがて車に慣れ始めると、同じくホンダの「S660」を追加して、雪道のような滑りやすい路面を想定した「スキッドコース」に移り、横滑りなどの日常では非常に危険な状態を安全に体感することができました。フリードは前輪駆動、一方S660は後輪駆動のため、スピンの仕方に差が出たり、ハンドルの効き方が変わったり、車両の挙動が変わったりすることを感じた後、横滑り防止装置の有無で車の挙動が変わることも体感し、スキッドコースのタイムアタックを受講生内で行い、速い方は32秒ほどでゴールするなど、自分の力で車を操作していると感ずることができ、非常に楽しかったです。



昼食休憩を挟んだ後、午後からは午前中も使っていたフリードに乗車し、急ブレーキ体験を行いました。コースを下見してから、30km/hと40km/hでパイロンの場所で急ブレーキをするという体験を2回ずつ行いました。タイヤをロックさせないように取り付けられているABSと呼ばれる装置を作動させるように、ブレーキペダルを思いっきり踏まないといけませんので、初めは踏む力が足りなくABSを作動させる事ができませんでしたが、徐々に踏むことがで

きるようになっていき、パイロンから30km/hの時は3m、40km/hの時は6mで止まることができるようになりました。

次に、同じ速度でコースを走り、信号機が点灯したら急ブレーキを掛けるということを行いました。先程のパイロンで急ブレーキをする時より、距離が5mほど伸びてしまいましたが、その伸びた距離こそが空走距離だと教えて頂き、教習所で教わった空走距離を実感することができました。

次に咄嗟の時についやってしまう「ハンドル逃げ」を体験してみることにしました。先程と同じ30km/hと40km/hで走り、3灯式の信号の右が消えた状態で点灯した時は右、左が消えた状態で点灯した時は左にハンドルを切り、全て点灯した時は急ブレーキという動作を行い、それらがランダムで発生するという反射だけでなく、判断力も問われるような体験をしました。

結果、ハンドル逃げして避けられるまで、速い人でも2秒から3秒掛かっており、その間に車は25mから30m進んでいました。一方、急ブレーキは長くても15m前後で止まることができていたので、ハンドル逃げせずに急ブレーキを踏む方が良い結果になりました。また、ハンドル逃げの時に、誤って違う方向へハンドルを切ってしまうこともあり、危険な行為だと再認識することができました。また、それと同時に適切な安全車間の重要性を再認識することができ、前の車から3秒ほど開けておくと、いざという時でも回避出来ることも学びました。



およそ4時間の研修でしたが、あっという間に時間は過ぎて閉講式の時には、全員に修了証が授与され、本研修は終了となりました。

今回の研修に参加して、私事ですが、バスに乗務していた時に行っていた、安全研修を思い出すと共に、改めて安全運転の方法であったり、心持ちであったり、多くのことを改めて学ぶことが出来ました。さらに、スキッドコースを使

用した、スピンやハイドロプレーニング現象といった、危険な運転状態を体感することができ、滑りやすい路面での慎重な運転を学ぶことができました。本研修で体験できたことを、運転時には意識して、安全運転を心掛けていきたいです。

(大学院 工学研究科 交通機械工学専攻)



# 「大阪 物作り体験」感想文

宮城 陽裕

私は、大阪物作り体験会にて森野サンプルとカップヌードルミュージアムを訪れ、大阪ダックツアーに参加しました。

まず、森野サンプルで食品サンプルの製作体験をしました。私は、食品サンプルの製作をした経験や知識がなく以前から興味がありました。施設の中には、大きなパフェやカニなどたくさんの食品サンプルが展示されていました。いずれも本物そっくりで、細かい部分まで再現されており魅力を感じました。実際に、フルーツタルトのサンプル製作を体験しました。タルト生地にホイップクリーム状の接着剤を絞り、フルーツの盛り付けとニスでつやを出し、ミックスチョコをかけました。特に、ホイップクリームを絞ることがとても難しかったです。絞りツノをきれいに立てることが上手くできず、コツをつかむのに時間がかかりました。体験を終えて、作業場の見学と施設の方の説明を聞きました。体験前は口ウ製が主流と聞いていましたが、樹脂製

と聞き驚きました。また、食品サンプルは大正時代から昭和初期に日本で考案され、大阪が発祥の地であることを初めて知りました。さらに、各パーツを着色するのにエアブラシで何度もコーティングする作業を見学し、想像以上に手間がかかっていると感じました。

次に、カップヌードルミュージアムに行きました。私は、マイカップヌードルを作りました。実際に自分でカップをカラーペンでデザインし、スープと具材を選び包装しました。特に、具材が12種類もありその中から4つしか選ぶことができずとても迷いました。自分好みのオリジナルカップヌードルを作り、とても満足しました。また、今まで発売された製品が展示されているインスタントラーメン・トンネルを見学しました。約800種類のパッケージが頭上まで展示され、思い出の商品を探し出しました。カップヌードルなどのロングセラー商品のパッケージが、現代と発売当初と異なっていることに気づきました。さらに、安藤百福が発明したチキンラーメンとカップヌードルのエピソードや歴史について学びました。安藤百福が、チキンラーメンを開発した研究小屋を再現したエリアがありました。小屋の中には、開発で使われた道具がたくさん展示され、発明までの苦勞が伝わりました。カップヌードルの開発について、ドラマシアターがあり説明を聞きました。カップヌードルが誕生するまでのひらめきのエピソードや、製造工程がCGで再現された映像を見ました。また、安藤百福はお湯が出るカップ麺自動販売機を開発したことを初めて知





りました。この施設を訪れて、ものを発明するにあたってありふれた道具のみで世界的発明が生み出せることを知り、これから卒業研究に取り組む私にとって非常に勉強になりました。

最後に、水陸両用バスに乗り大阪ダックツアーに参加しました。私は大阪出身ですが、大阪ダックツアーに参加したことが1度もなくとても楽しみにしていました。水陸両用バスの全高が3.7mと他の自動車よりも高く、オープンカーのため風が入り少し寒かったです。女性ガイドの方の話がとても面白く、大阪の歴史や街について軽快な話術で説明していただきました。大阪城や大阪府庁などの有名な建物を眺めながら、桜ノ宮へ向かいました。バスは、桜ノ宮の河川敷から勢いよく旧淀川に入りました。その瞬間は、水しぶきが上がりとても迫力がありました。バスは船に変身し、川から中之島や天満橋周辺の街の景色をゆっくり堪能しました。ツアーに参加した時間が夕方

で、旧淀川から見る大阪の街と夕焼けの景色がとても美しかったです。今でも、その景色が目に焼き付いています。あっという間に75分間のツアーが終わり、今度は桜が咲くシーズンに参加したいと思いました。



(工学部 機械工学科)

# 笹岡先生・加藤先生と行く！21世紀の芸術鑑賞巡り

田村 美咲希

第7回芸術鑑賞巡りでは、一泊二日で金沢21世紀美術館、兼六園、金箔貼り体験、妙立寺に行きました。

私が参加しようと思ったきっかけは、コロナ禍で全く旅行できなかったのが、大学の友達との思い出作りと、芸術に触れてインプットし、今後の学習でアウトプットする材料を増やすためです。そして、みんな大好きな先生と5,000円で金沢！に心を奪われたからです！



1日目の金沢21世紀美術館では、イヴ・クラインの作品を見て回ったり、キッズコーナーにある瓶ビールの蓋でカスタネットを作るワークショップに参加しました！（自由行動）

イヴ・クラインの作品は勿論、キッズコーナーでも刺激を受けました。イヴ・クラインの作品で印象深いのは「青」です。イヴ・クラインの名付ける青には、一切のムラがなく、額縁に納まっていなければ、私達は飲み込まれていたかもしれません。同じ青を使用しているも、海綿を利用するなど、立体感のある作品や、人の動きを捉えた躍動を感じさせる作品など、多種多様な青を見られました。また、作品の制作過程やそこに込めたメッセージ性のある動画のおかげで、彼の思考に裸でダイブできました。キッズコーナーではビール瓶の蓋でカスタネットを作りました。「SDGsですね」と言うと、係の方は、「SDGs流行ってるけど、それより、身近なもので楽しむ事を伝えたいね。SDGsって言われたらそうなんだけどね！」と答えてくれました。最近はSDGsと聴いて、取り組む事が多いですが、SDGsが無かった時代には、課題以前に、楽しむことを目的に、自然とSDGsに繋がりを持っていたんだな、と気が付きました。そのほかにも、美術館の外にある、SNSで話

題のスポットで写真を撮るなど、刺激的な時間を過ごしました。



次の日は残念ながら雨でしたが、兼六園では、心身共に癒されました。紅葉の季節や、金沢の名物でもある雪吊りが活躍している季節にも、また行きたいと思いました。大阪の喧騒から離れ、雨や水の音に耳を傾ける時間は心を穏やかにしてくれました。

金箔貼り体験では、色をのせた金箔のタンブラーを作



りました。上手くできるか心配していましたが、全員が失敗する事なく綺麗にできました。隣の部屋のお土産ブースは本当に魅力的なものばかりで、じっくり見ていると添乗員さんに急かされました笑

そして、妙立寺の見学ですが、これがとびきり素敵な時間でした。雨の中の兼六園ではゆっくりできないし、時間もあるし、と、先生方と添乗員さんのアイデアで急遽行かせて頂きました。ガイド付きで、40分と聞いた時には、正

直長いなあと思いましたが、中を案内されると、たちまち妙立寺の虜になりました。皆さんにはぜひ、ご自分の目で、耳で、体で感じて頂きたいので、具体的な内容は伏せますが、本当にどこをみても面白くて、内心は「ガイドさん待って待って!まだ見たい!」と思っていました。金沢に行かれる時には、絶対に妙立寺へ行ってみてください!

一泊二日の芸術鑑賞巡りを経て、私たちは「ステキな贈り物」を沢山受け取りました。まさか、こんなにも有意義で心躍る時間を過ごせるとは思いませんでした。このような機会を下された、関係者の皆様と、先生方、添乗員さんには心から感謝しております。

来年度も芸術鑑賞巡りがあるかと思いますので、是非みなさん参加してみてください!

みなさんのご参加がなければ、私達が来年も行きます!笑

(デザイン工学部 建築・環境デザイン学科)





▲令和4年度 写真・イラストコンテスト(写真部門)応募作品  
『春の暖かさ』  
松浦 由輝(デザイン工学部 情報システム学科)

# コンテスト報告

コンテスト報告

Excellent Works of the Contest



令和4年度 写真・イラストコンテスト(イラストデザイン部門)奨励賞作品  
『告白』  
池田 百花(経営学部 経営学科)

# コンテスト報告

令和4年度 企画委員長 笹岡 敬

## 第23回「ぶんかくコンテスト」

(長編部門／短編部門)

## 第7回「写真・イラストコンテスト」

(写真部門／イラストデザイン部門)

## 第5回「見学会プランニングコンテスト」

大阪産業大学学会では、例年、学部生・大学院生を対象に学会コンテストを実施しています。

ぶんかくコンテストでは、「長編部門」「短編部門」でそれぞれ募集し、「短編部門」は応募がありませんでしたが、「長編部門」で、多様なジャンルの小説の応募がありました。

写真・イラストコンテストの「写真部門」では、学内だけに限定しない風景写真を募集し、創意を加え撮影された写真などたくさんの応募があり、「イラストデザイン部門」では、パソコンを用いて制作された作品、ボールペンで描かれた作品などの応募がありました。

前年度は新型コロナウイルス感染拡大による影響を考慮し、中止となっておりました「見学会プランニングコンテスト」を今年度再開致しました。学生目線で企画された、様々なプランの応募がありました。優秀なプランは、次年度の学会主催の見学会として開催する予定です。

次年度以降も、学生がより興味をひくよう工夫を凝らしながら、継続していきたいと思います。

大阪産業大学学会  
コンテスト2022  
Osaka Sangyo University Academic Society  
Contest 2022  
大阪産業大学学会主催

Let's try!  
日頃蓄積している文章やイラスト、この一年の思い出の風景写真、  
学会見学会キトラクターなどをこの機会にご応募ください！

応募期間  
2022年9月21日(水)～10月14日(金)  
締切厳守

優秀賞 賞状+Quadカード3万円分  
奨励賞 賞状+Quadカード2万円分  
努力賞 賞状+Quadカード1万円分  
参加賞 Quadカード1,500円分  
※参加賞は抽選による。抽選は9/27(金)実施。抽選結果は9/28(土)に、事務局からメールでお知らせいたします。

＜募集コンテスト＞  
◆ぶんかくコンテスト  
◆写真・イラストコンテスト  
◆見学会プランニングコンテスト

※応募期間中の思い出の文章や写真・イラストにして応募してみませんか？

【応募方法】  
学会ウェブサイトのお申し込みフォームよりご応募ください  
【お問い合わせ先】  
大阪産業大学学会事務局  
【本部所属 倉庫時代外学館館内】  
【平日】10:00～16:00  
TEL: 072-879-3001 (内線: 2815)  
MAIL: gakkai@crt.osaka-sandai.ac.jp

▲2022年度学会コンテストチラシ

# 大阪産業大学学会コンテスト2022実施結果

募集期間 2022年9月21日(水) ～ 2022年10月14日(金)

---

## 第23回 ぶんかくコンテスト実施結果

---

審査 書類審査  
2022年10月17日(月) ～ 10月28日(金)  
最終審査  
2022年11月22日(火)

募集内容 長編部門・短編部門

応募件数 長編部門……………3件  
短編部門……………応募者なし

### 〈受賞者一覧〉

#### [長編部門]

【優秀賞】 …該当者なし

#### 【奨励賞】

西川 宗一郎(経営学部 経営学科)

作品：隠し包丁



▲西川宗一郎さん



▲河崎一輝さん

河崎 一輝(経済学部 経済学科)

作品：三千日のタイムラプス

#### 【努力賞】

近藤 聖那(国際学部 国際学科)

作品：読み返すことのない日記



▲近藤聖那さん

### 〈審査委員〉

村田好哉、張黎、田口まゆみ、藤田拓之、藤岡芳郎、福森徹、朴容寛、佐藤彰彦、齋藤立滋、  
李東俊、木村啓二、加藤健

(順不同、敬称略)

---

## 第7回 写真・イラストコンテスト実施結果

---

審査 書類審査  
2022年10月17日(月) ～ 10月28日(金)  
最終審査  
2022年11月22日(火)

募集内容 写真部門・イラストデザイン部門

応募件数 写真部門……………39件  
イラストデザイン部門… 5件

〈受賞者一覧〉

[写真部門]

【優秀賞】

九里 孝行(工学部 機械工学科)

作品：秋水

【奨励賞】

吉崎 哲史(工学部 機械工学科)

作品：大都会の夜に咲く花

【努力賞】

渡辺 直哉(工学部 交通機械工学科)

作品：赤富士



▲九里孝行さん



▲吉崎哲史さん



▲渡辺直哉さん

[イラストデザイン部門]

【優秀賞】

真木 稜介(デザイン工学部 環境理工学科)

作品：不確実な時代に生き抜く力

【奨励賞】

池田 百花(経営学部 経営学科)

作品：告白

【努力賞】

近藤 聖那(国際学部 国際学科)

作品：未知領域



▲真木稜介さん



▲池田百花さん



▲近藤聖那さん

〈審査委員〉

仲田秀臣、谷本英彰、笹岡敬、紙谷卓之、鶴田哲也、竹田和真、部谷学、和田明浩、伊藤一也、姜文淵、塩見剛一、瀬戸田克

(順不同、敬称略)

第5回 見学会プランニングコンテスト実施結果

|      |  |
|------|--|
| 審査   | 書類審査<br>2022年10月14日(金)～10月18日(火)<br>最終審査<br>2022年10月18日(火) |
| 募集内容 | 日帰りで実施可能な見学会プラン  |
| 応募件数 | 6件   |

【優秀賞】

宮城 陽裕(工学部 機械工学科)

プラン名：愛知 交通産業見学会



▲宮城陽裕さん

【奨励賞】

千足 泰子(デザイン工学部 建築・環境デザイン学科)

プラン名：神戸北野で五感を磨く

～異人館巡り&調香体験～



▲千足泰子さん

【努力賞】

森 雄飛(国際学部 国際学科)

プラン名：フィルムツーリズム in Himeji

(世界遺産姫路城と書写の古刹圓教寺)

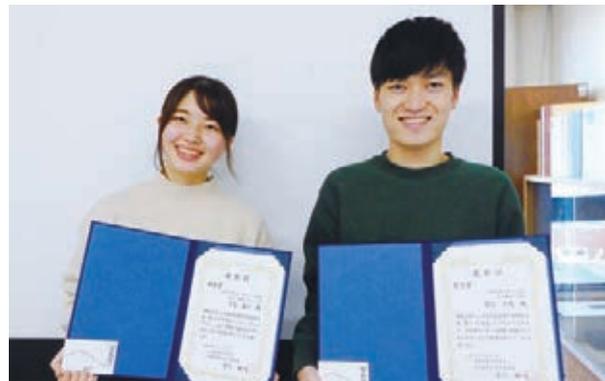
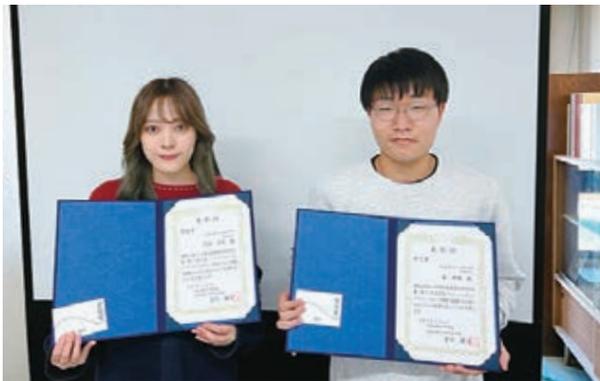


▲森雄飛さん

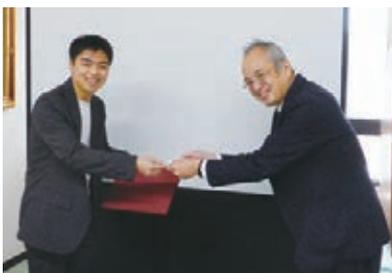
〈審査委員〉

藤田拓之、仲田秀臣、佐藤敦彦、加藤健、笹岡敬、紙谷卓之、部谷学、伊藤一也

(順不同、敬称略)



▲集合写真



▲授賞式の様子



▲令和4年度 写真・イラストコンテスト(写真部門)応募作品  
『旅先』  
花重 俊輔(工学部 機械工学科)

---

# 講演会報告

---



講演会報告

Lecture Reports

# 生き物とつくるアート

竹重 風美

私は、11月29日に行われた「AKI INOMATA Talk Show “生き物とつくるアート”」に参加しました。

まず、5つの作品について話がありました。



1つめは、「やどかりに『やど』をわたしてみる」についてです。これは、やどかりの住処となる貝殻の「やど」を、3Dプリンターでつくり、やどかりに渡します。「やど」の形は、ニューヨークや東京などの都市の形をしています。はじめはシンプルな球体だったのが、つるっとした「やど」には住まない生態から、実際の貝をスキャンし、そこに都市を足した形になっています。この作品が表しているのは、国同士の領土の行き来です。やどかりが、「やど」から他の「やど」に移動する、この動作に都市を当てはめています。私は、生き物に住処の好みがあり、それにより作品の形が影響されて変わっていく過程が面白いと感じられました。作品に、作者の意思だけでなく、予測が出来ない意思が入り込んでいるようです。



2つめは、「貨幣の記憶」についてです。モチーフは真珠で、それが5大貨幣の肖像になっています。寶貝のように、貝殻は元々貨幣として使われていました。そのような貝の作品を海にかえし、未来に発見される頃には作品自体が化石となります。作品から、時代を隔てた口マンと、時間が経つことでお金が化石となるかもしれない、貨幣の複雑さを感じました。

3つめは、「進化への考察」についてです。タコとアンモナイトは、頭足類という同じグループに含まれます。そこで、復元したアンモナイトの殻をタコが着て、先祖返りになる作品です。タコが殻を好んでいることから、先祖の記憶かもしれない動きが、透明の殻により細かく目で見てとれる所が面白いと思いました。



4つめは、「彼女に布をわたしてみる」についてです。葉でミノをつくるミノムシに、生地でミノをつくってもらった蓑遊びを参考にした作品です。さらに、羽化した後のミノガの翅の模様は、ルールがあることから、それを分析しモチーフにする、絞り染めの新しい技法も生み出します。ミノムシがミノをつくることも、人が絞り染めをするのも、どちらも職人技です。双方の職人技のコラボレーションにより、有松絞り染めの再現度とミノガの翅の美しい柄が生かされ、伝統の中にも新しさを感じます。

5つめは、「彫刻のつくりかた」についてです。一本の木を、木を齧って巣を作る習性があるビーバーが独特な形を作ります。すると、齧られた彫刻の形はどれも、くびれのある螺旋の様な共通点があります。その螺旋の理由は、

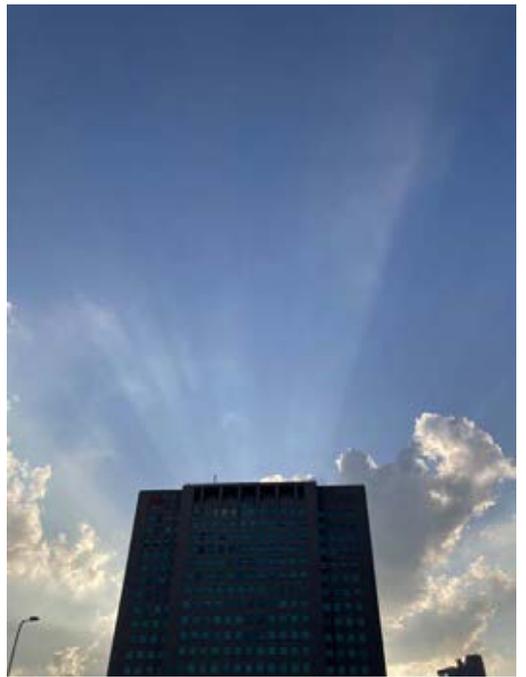
ビーバーが螺旋状に生える木の枝による芯の硬さを避けて齧った結果出来たものです。ここで、この作品の作者は本当にビーバーなのかという疑問が生まれます。木を齧り形を作ったのはビーバーですが、その形は木の枝の必然により作られた物です。この疑問から、ビーバーの木を模倣して、人や機械が模刻すると、より滑らかな削り面になったり、指示やわざとらしさを感じる削り面になります。さらに、もっと進めると勝手に、作品に穴が空き始めます。作者が外側から素材に何かアクションを起こすのではなく、これは影の彫刻家である虫が、内側から彫刻を掘り進めた結果出来たものです。私は、この作品のコンセプトの広がりが面白いと思いました。1つの作品から、作者とは何かであったり、素材と作者の関係についてであったり、制作を進めていくことで影響されコンセプトが深められています。



今回のトークショーを通して、予測が出来ない生き物と作品をつくることで、コンセプトがバージョンアップされ思考が拡張されることを知り、視野が広がりました。このことを、大学の学びにも活かしていきたいです。

(デザイン工学部 建築・環境デザイン学科)





▲令和4年度 写真・イラストコンテスト(写真部門)応募作品  
『希望のひかり』  
濱口 幹太(人間環境学研究科)

# 留学記



# 韓国留学での生活と学んだこと

国際学部 国際学科 多田 万里菜

## 留学を決意したきっかけ

私が韓国留学を決意したきっかけは、大学で多くの留学生と出会ったことです。留学をしてみたいと思いつつ、はじめは留学は特別なことで私には金銭的に考えても厳しいと考えていました。しかし異国の地で必死に学び成長し続ける留学生達を見ていると、私も将来グローバルに働くために挑戦したいと考えるようになりました。また、韓国留学は他の国に比べて費用を抑えて留学が出来る、それに加え語学堂に通えば多くの海外の人達と学ぶことが出来るため留学を決意しました。留学は2年次後期の半年間を希望していましたが、新型コロナウイルスが流行し中止になりました。3年次になっても状況は良くなり、大学から交換留学として韓国に行くことは出来ませんでした。諦めきれなかった私は大学外から留学する方法を探し、私費で留学することになりました。

## 留学中の生活

コロナ禍での留学だったため、通常より準備するものや規制されていることがたくさんありました。2週間の隔離生活を経て、語学堂の授業に参加しました。はじめは韓国の学生がオンライン授業だったため、大学内に海外からの留学生しかいないという状況でした。少し残念でしたが、まずは会話ができるまで頑張って韓国語を習得しようと考えました。クラスは6つの級があり、私は初級の1級の授業から参加しました。12人程の多国籍の留学生が集まったクラスで、挨拶から入り、文法や単語を学んでいきました。先生もとても優しく教えてください、授業外でも疑問点があれば教えてください、外でお会した時は笑顔で声をかけてくださりました。クラスメイトとははじめは言語も通じず文化も違うので静かなクラスでしたが、ペアやグループワークがあったため段々と打ち解けていき、習った言葉を使って話せるようになりました。1級ではとにかく韓国語の基礎知識を覚えるために、単語や文章を暗記して、小テストが2日に1回程度ありました。小テストの勉強も海外の友人と一緒に寮やカフェでやって

いました。また、クラスメイトだけでなく、たくさんの国の友人ができました。授業が13時半までだったため、平日の午後は友人と会話をしたり、一緒に運動をしたり、買い物に行ったりしていました。買い物に行く時をはじめは全く話せなかったため、とても怖かったです。しかし段々聞き取れる、話せるようになり、買い物楽しくなっていました。1学期に2回程度、授業後に文化授業があり、韓国のプレスレットやランプを作りました。ランプには、留学先で仲良くなった多国籍の友人達に名前を書いてもらい、私の宝物が出来ました。テストは2回あり、筆記のテストに加えリスニングやスピーキングのテストもあり、たくさん勉強しました。無事進級出来、2級では作文の課題などもありました。出来ることが増えていき、旅行をしたり、韓国の友人も出来ました。コロナ禍であったため、あまり外に出ること



は出来ず、クリスマスや新年は友人の家でパーティーをしていました。

### 私が留学を通じて学んだこと

私は今回の留学を通じて、友人や先生など関わってくださった人から多くのことを学びました。私は将来、偏見なく働きたいと考えていましたが、留学を経験してその気持ちの方が大きくなりました。国や年齢関係なく接してくれた友人が出来、本当に楽しく幸せな時間を過ごすことが出来ました。言葉が上手く話せなくても、広い心で接してくれて、たくさん私を誘ってくれました。海外の友人はあまりグループに縛られることなく接してくれ、常に新しい友人が増えていくという状況でした。また、国の奨学金で留学をしている優秀な学生が多かったため、勉強面でも刺激を受けました。私が帰る前にパーティーを開いてくれたり、最後の日も朝早くから1時間以上かけて一緒に駅まで来てくれたりなど、心温かい友人に出会うことが出来ました。生きてきた国が違っていると、偏見を持ってしまったり、壁を作ってしまうことがあると思います。しかし、実際に接してみると本当にいい人ばかりで、国は関係ないのだと改めて気づくことが出来ました。今回留学をした韓国も、日本

との関係が問題となっていますが、実際は、日本人だと言うと嬉しそうに知っている日本語を話しかけてくださったり、たくさん助けてくださいました。私は、何も知らずに世界の壁を作ってしまったてはいけなと感じました。政治や歴史は変えられなくとも、人は変えられると、この留学で強く学び、私が将来何がしたいのか光が見えた時間でした。この出会いや学びを大切に、世界を繋げられる人になりたいです。



# 私の成長

国際学部 国際学科 重松 美月

私は、夏季休暇の8月8日から20日までの10日間、朝鮮語海外研修を受講しました。受講した理由は、新型コロナウイルスの影響で韓国留学へ行くことを断念したこと、大学1年生から今まで勉強してきた朝鮮語がどこまで使えるのか試してみたいと思ったこと、普段の授業では触れることの出来ない韓国の文化や現地の人との交流を試してみたいと思ったからです。

授業開始の数日前にオンラインでのレベル分けの為に、先生と1対1でお話をする機会がありました。その際に、聞き取ることは出来ても伝えたいことを全て伝えることが出来ずとてももどかしい気持ちになりました。また、初級、中級、上級のクラスがありましたが、先生とお話する中で、「実力は初級クラスの方が向いているけれど、あなたなら中級クラスで頑張れそうな気がします。」と言っていたので、ワクワクした気持ちと不安な気持ちが入り交じった状態からのスタートでした。

授業は日本人同士でのグループワークやペアワークをする際もすべて朝鮮語でした。これまで、日本語を母国語とする先生の授業しか受けていなかったため、朝鮮語の文法の説明を朝鮮語でされることや、分からない単語も全て朝鮮語で説明されるので理解することが難しいことが多かったのです。しかし、先生方がとても分かりやすいように、ジェスチャーや優しい単語で噛み砕いて説明して下さいたり、説明が終わる度に分からないことはないか聞いて下さったりしたのでとても安心出来ました。

初めは噛み砕いて話して下さいたことしか理解出来なかったことも、日が経つにつれて段々と理解できるようになりました。分からない単語などもその場で調べる習慣がついたこともあり、自分で成長を感じる時が多々ありました。

先生は2人いて、月火曜日と水木金曜日でそれぞれ担当して下さいました。どちらの先生もとても優しくサポートして下さいました。一日の授業の始まりには、出席確認と同時に1人1人毎回様々な質問をして下さり、緊張をほぐすことが出来ました。また、休憩の後授業が始まる際に

は、K-POPの音楽を流して下さいたことで楽しく授業を始めることが出来ました。

私のクラスの生徒は、他大学の方たちばかりで初めましての状況でした。しかし、毎回の授業で生徒同士でのコミュニケーション時間があり、そこで韓国アイドルや俳優、ドラマ、韓国料理等の共通の話をしていくうちに打ち解けることができました。教科書の練習問題等も自分1人ですることはあまりなく、みんなで協力しながらすることが多かったため、スムーズに行う事が出来ました。また、そういった活動の中で他の生徒の実力も知ることができ、もっと頑張ろうという気持ちにもなりました。

この朝鮮語海外研修で1番印象に残っていることは、毎回一日の最後の授業で、韓国の学生とのコミュニケーションを行ったことです。韓国の同じ年代の子達と話したことがなかったので、研修が始まる前からとても楽しみでした。初めはやはり伝えたいことを伝えることができなかったため、もどかしい気持ちでしたが、私のごちない朝鮮語を優しく熱心に、大きなリアクションで聞いてくれたため楽しく話すことが出来ました。また、韓国で流行っている服やドラマ、おすすめの観光地、実際によく遊びに行く場所など、教科書だけでは知ることの出来ない情報も知ることができました。また日本に関心がある人達がほとんどで、日本語がとても上手な方もいたことから、日本の食べ物や文化についても話す機会があり、お互いに情報交換が出来てとても楽しい時間でした。オンラインでしか話すことが出来なかったため、実際に会って話してみたいなと思いました。

知っている人がいない中の参加であること、オンライン授業であること、日本語を一切使わないということは、いつもの授業とは全く違う環境で緊張と不安がとても大きかったです。しかし、このような新しいことにチャレンジすることは自分を大きく成長させてくれました。また、私はコロナ禍で大学のほとんどの講義をオンライン授業で受講しました。このような環境で生徒同士や先生とのコミュニケーションが減っている中、コミュニケーションを多く行

この朝鮮語研修を受講することができ、とても良い刺激になりました。10日という短い期間でしたが、大学生最

後の夏季休暇を有意義に充実した日々で過ごすことができました。

# オンライン研修を経て

国際学部 国際学科 土井 菜々美

私は今年の夏季休暇8月8日から19日の10日間にわたって実施された、オンライン朝鮮語海外研修に参加しました。

参加しようと思ったきっかけはいくつかあります。高校生の頃から留学してみたいという思いがあったため国際学部のあるこの大学に入学することを決めましたが、私が入学する年からコロナウイルスの影響で、対面授業が行うことができずずっとオンライン授業でした。海外旅行に行くことも難しいという大学生活を丸2年過ごしました。3年生になると就職活動のことも視野に入れなければならない、自分自身の大学生活を振り返ってみると、何もチャレンジしていないことに気がつきました。そこで朝鮮語のオンライン研修があることを知り、1・2年生の頃に朝鮮語の授業を受講していたので、この研修に参加しよう決めました。

3年生になってからは朝鮮語にふれる機会がなく、1・2年生の頃に習った文法や単語などはほとんど忘れかけており、自分自身のレベルは初級レベルだったと思います。オンライン研修が始まる1週間前にクラス分けテストがありました。実際にZoomを使ってネイティブの先生とコミュニケーションを取りました。話していること全てを理解することはとても難しかったです。知っている単語、聞き取れた単語で何となく文章を理解していました。6段階のレベルがあり、私は2番目のレベルを選択しました。ネイティブの先生の話全てを理解している生徒もいて、1週間後から授業が始まることに不安と緊張でいっぱいでした。

初日は先生の自己紹介や軽く文法を習うだけでした。2日目から色々な文法を習い、その文法を活用して問題文を解いたり、先生や他の生徒と会話したりすることで身につけていきました。私が受講したクラスには、日本人の他に台湾人の生徒もいました。朝鮮語を学び始めて数年、数か月経つ人や今回のオンライン授業から初めて習うという人もいました。そんなレベルがバラバラな私たち生徒に先生は全員が理解できるよう、パワーポイントを使いとても分かりやすく教えてくれました。

私が2週間のオンライン授業で一番印象に残っていることは、韓国の大学生とコミュニケーションを取る時間です。毎日4限目にその日習った文法を使い韓国の大学生と会話しながら復習する時間がありました。なかなかコミュニケーションが上手く取れなかった時には英語で話したり翻訳機を使ってくれたりしました。また先生から出された課題が早く終わると韓国の大学生とフリートークをする時間がありました。オンライン研修に参加した生徒のほとんどはKPOPが好きな人が多く、韓国の大学生とKPOPの話をしたり、慣れてくると日本や韓国の好きな食べ物や行ってみたい場所についても質問し合えるようになったり、とても楽しい時間を過ごすことが出来ました。

この10日間を通して、朝鮮語をもっと勉強して話せるようになりたいと思うことが出来、自分のモチベーションアップにも繋がりました。素晴らしい経験をすることができ、参加して良かったです。

有難うございました。

---

# 学術研究書出版助成本の概要

---



学術研究書出版助成本の概要

Financial Aid for Publishing

# 翻訳『黙想の鏡に映す イエス・キリストの祝福の生涯』

国際学部 国際学科 教授 田口 まゆみ

本書は、15世紀初頭にニコラス・ラヴが著した*The Mirror of the Blessed Life of Jesus Christ*(以下『鏡』と呼ぶ)の翻訳です。そして『鏡』は、偽ボナヴェントゥラ(おそらくフランシスコ会士サン・ジミニャーノのヤコブ)による*Meditationes Vitae Christi*の翻訳で、ラヴは部分的削除及び加筆を行っています。15世紀初頭、英語訳聖書は教令によって禁止されていましたが、『鏡』は、福音書に代わる信徒の手引きとして教会から認可を受け、奨励されたため、多くの写本が作成されました。現在でも約50本(断片もあわせると60本あまり)の写本の所在が確認されており、中世末期英国で最も広く読まれた宗教文献であると見なされています。

この作品は、中世後期独特の黙想法による信仰様式を伝える書としても重要です。それは、リアリスティックに想像したイエスとマリアの生涯の世界にいわば仮想的に参加し、共感することにより宗教心をかき立てる、フランシスコ会の霊性を代表する信仰様式です。原作の*Meditationes Vitae Christi*は、フランシスコ会のクララ会修道女たちの手引き書として執筆されたという形を取っていますが、ヨーロッパ全域に急速に伝播・普及し、多くの言語に翻訳され、数多の文献に引用・抜粋使用されたので、当時最も重大な影響を与えた信仰の書であると広く認められています。英国でも高い人気を博し、特に受難・復活の部分抜粋が流布した形跡がありますが、全体訳は、ラヴによる本作『鏡』のみです。ラヴは序文で、この信仰様式について、黙想という方法によって想像・理解するイエスの生涯は、(当時の)鏡に像を映すようだ表現しています。ラヴの翻訳が教会に認可されたことは、この様式がすでにかなり普及していて、さらに拡散していく過程にあったことの証しと言えます。教会の時代の終わりに、こうした(司祭の手を借りる必要の無い)自己完結型の、内に向かう信仰形式が流行したことは、西洋近代における自我の発展に寄与したと考えられています。

『鏡』の作者ニコラス・ラヴについては多くが知られておらず、15世紀初めにカルトジオ会マウント・グレイス小



修道院長を務めていたことが記録に残っているぐらいですが、ラヴは宗教改革前夜の15世紀イギリスに大きな影響を与えることになりました。彼は*Meditationes Vitae Christi*の翻訳に、聖餐の聖変化についてカトリック教会を擁護する加筆を行い、ウィクリフ派反教会勢力の台頭に対抗するための大胆な仕込みをした上で、カンタベリ大司教トマス・アランデルに直々に献上しました。『鏡』の冒頭の付記によれば、本書は数日の簡単な検閲の後、「信徒の啓蒙および異端者やロラード派を論駁するため」の手段として認可を受けたのです。『鏡』は瞬間に巷に広まり、「純朴な者たち」、「学識のない人々」、「純朴で敬虔な魂」のためにという序文の言葉とは裏腹に、市井の信徒だけではなく、聖職者、修道者、王侯貴族まで、写本を注文・購入する余裕のあるほとんど全ての層に行き渡ったと言うのです。また、個人で所有することのできない者には読み聞かせられ、あるいは、他の表現手段(文学・美術・演劇など)を介して影響を及ぼしました。

『鏡』は、15世紀後半の印刷技術導入以降も、文句な

く当時のベストセラーでした。ウィリアム・キャクストンが『鏡』を初めて印刷したのが1486年。その後、ラテン語に訳されたものが1490年に印刷されている他、ピンソンが1495年に、ウィンキン・ド・ウォードが1517年と1523年の二度にわたって印刷刊行しています。宗教改革までに少なくとも9回の刊行を重ね、17世紀に入ってから、国教忌避の出版社によって出版が続けられました。その後も、改訳版などをあわせると19世紀の末まで継続的に印刷機に掛かっていたことが明らかになっています。

福音書に代わる信徒の手引きと初めに書きましたが、この『鏡』にも、また原作*Meditationes Vitae Christi*にも、実際、聖書に匹敵する役割がありました。当時は、高

位の聖職者・学者の間にさえ、ヘブライ語・ギリシャ語聖書原典はおろか、ヒエロニムスのラテン語訳も完全な形で行き渡っていなかったため、聖書の真の姿など簡単に知りようもなく、大多数の信徒にとって、聖書の内容は様々に書き換えられた「物語」の形で伝えられていたからです。こうした聖書物語は、人々にとっての聖書に他ならなかったのです。

(本書の前半部分は、「ニコラス・ラヴ『イエス・キリストの尊い生涯の鏡』」として、『大阪産業大学論集人文科学編』112-119(2004-2006)に連載されましたが、この度、翻訳を完成させるとともに、全体の訳を見直し、訂正および文体の統一を行いました。)

# 『社会問題化する組織不祥事』の概要

経営学部 商学科 准教授 中原 翔

本書は、筆者の博士論文をもとにしており、組織不祥事の構築主義的アプローチについて理論的かつ経験的な検討を行った一冊である。これまで組織不祥事とは、組織固有の現象として捉えられ、その(悪しき)組織や個人を是正することによって事態は収束すると考えられていた。いわゆる「他者危害の原則」に基づく組織不祥事の捉え方である。

しかし、昨今では、このように組織や個人への原因帰属だけでは済まなくなっている。組織や個人に明確な危害がなくとも、社会的要請にしたがって問題化されてしまうからである。そのため、問題化された側はその火消しを余儀なくされるという意味での没問題化(周縁化)を行わなければならない。つまり、組織不祥事とは、もはや組織固有の問題ではなく(組織問題)、社会的な問題(社会問題)である。

このような問題意識を踏まえ、本書は三部構成としており、組織不祥事に関連した研究の理論的検討(第一部)、組織不祥事研究の理論的・方法論的検討(第二部)、組織不祥事の経験的調査(第三部)としている。以下では、主に第二部と第三部を詳述した要約を記したい。

第一部を構成している第1章から第3章では、組織不祥事に類似した概念を精査するために、それぞれ組織犯罪研究、組織事故研究、組織リスク研究という三つの領域を取り上げ、それらの理論的展開について検討を行っている。組織不祥事という概念と、それぞれの概念がどのように類似点・相違点があるのかを論じている。

第二部は、まず第4章において「不祥事」がこれまでどのように報道されてきたのかが既存研究で明らかでなかったことに鑑みて、「不祥事」記事の分析を行っている。本書では、「不祥事」記事の分析を通じて「1. 特定の主体による一方的な暴力や危害」(1980年代～)、「2. 不適切な資金移動」(1990年代～2000年代)、「3. 偽装と隠蔽」(2000年代～)という3つの傾向を明らかにし、「不祥事」と言ってもそれぞれの時代において取り上げられる



「不祥事」には違いがあること(流行のようなものがあること)を示している。

第5章では、既存の組織不祥事研究の理論的検討を行っている。既存研究では、組織不祥事を「状態としての組織不祥事」として捉え、かつ、その発生原因を組織内部へと帰属している。しかし、そうである以上、経験的な調査アクセスに失敗するなどの限界を抱えていた。この問題について本書では、その調査アクセスの失敗(という認識)が、実証主義を前提とした調査設計にあることを批判的に検討している。

第6章では、上記の限界を克服するために、組織不祥事を「活動としての組織不祥事」として捉え直し、これを方法論的に検討するために「社会問題の構築主義」(e.g., Spector and Kitsuse, 1977)の理論的検討を行っている。「社会問題の構築主義」では、社会問題がそれまで「状態としての社会問題」として捉えられてきたのに対し、それを人々の活動を通じて問題化されたものとして考える「活動としての社会問題」が主張されてきた。しかし

ながら、その後スペクターらはいわゆる「オントロジカル・ゲリマンダリング(ontological gerrymandering; 存在論上の恣意的な線引き)」(Woolgar and Pawluch, 1985) 批判を受けたことから、本書においてもこのOG論争の方途を見出し、新たな調査可能性として「ポリティカル・リサーチャビリティ (対話を通じた政治性を前提とする調査可能性)」を提唱した。これによって組織不祥事研究は、既存研究のような「エンピリカル・リサーチャビリティ (経験的な調査可能性)」の追求ではなく、その調査アクセスの失敗自体も政治的な駆け引きの一部として検討しうる「ポリティカル・リサーチャビリティ」が可能となっている。

第三部では、まず第7章と第8章において、それぞれ実際に筆者が行った2つの調査に言及している。第7章では運輸企業への調査であり、ここでは筆者が公式的な調査アクセスには失敗しながらも、非公式的な調査アクセスを通じて調査協力者を得ていく様子を記述している。すなわち、この運輸企業では目に見えない不祥事が横行しているために公式的な調査アクセスは忌避するものの、それを筆者は非公式的な調査によって内実を記述することで外部化(=可視化)している。第8章では、製薬企業への

調査であり、こちらは公式的な調査アクセスに成功したものの、調査ラベルの変更を迫られながら、内部者への調査を継続せざるを得ない状況を記述している。ただし、筆者はその調査を通じて当社が不祥事を起こした子会社工場を関連会社に譲渡していることを知ったため、それらを批判的に記述している。

第9章では、両調査を比較している。既存研究では、経験的な調査アクセスに失敗すればそこで調査が終了してしまうこと(あるいは、調査アクセスに失敗するほど組織不祥事研究は困難であること)などが言及されていた。しかしながら、本書では公式的な調査アクセスに失敗したとしても、そこから非公式的な調査アクセスを行うことが可能となることを運輸企業への調査を通じて示した。また、公式的な調査アクセスが可能となった場合でも調査ラベルを変更せざるを得ず(ポリティカルな理由から)、調査者自身の狙いを変えていかなければ調査を継続することが出来ない状況に言及している。なお、第10章は、本書全体の総まとめとして結論を述べているが、詳しくは本書をご覧ください。最後にはなるが、本書の出版助成を許諾いただいた大阪産業大学学会、並びに本書刊行を引き受けていただいた中央経済社に心から御礼申し上げます。

# 『人権法・人権政策のダイナミズム—知の民主化を目指して—』

経済学部 国際経済学科 教授 窪 誠

## 概要

本書所収の諸論文に通底する問題意識は、「知の民主化はいかに可能か」ということである。人権にとどまらず、人類の歴史において、哲学、宗教、科学等、事物についてのありとあらゆる語り、すなわち、「知」は、生産活動を直接行うことのない一部の支配エリートによって創り出され、担われてきた。「知」自体が、被支配者の世界認識を規定するための支配道具だったからである。こうした、「知」という事物の説明によって、被支配者の世界認識を支配する権力を「説明権力」または「問題設定権力」と呼ぶ。

本書は、以下の4部より構成される。

- 第1部 国際社会におけるダイナミズム
- 第2部 フランス・カナダにおけるダイナミズム
- 第3部 日本におけるダイナミズム
- 第4部 書評

第1部「国際社会におけるダイナミズム」は、国際社会における人権法・人権政策のダイナミズムを批判的に検討する。

第二次世界大戦という植民地分割戦争に勝利した連合国は、将来の植民地独立を射程に入れ、新たな世界支配の正当化として、「人権の国際的保障」という「問題設定」を行う。その設定された枠内で、さまざまな条約や制度が作られた。確かに、「人権の国際的保障」の発展には、政府のみならず、その発展を真摯に追及する、国際的な人権保護団体、法律家、研究者、市民の貢献も大きい。こうして、「問題設定」のヘゲモニーを握る支配者側と、たとえば支配者側によって設定された土俵であっても、その中で人間の尊厳を守らんと闘う被支配者との間で、大いなるダイナミズムが展開されることになる。本書所収の論考は、そうしたダイナミズムを第1部国際社会、第2部フランス・カナダ、第3部日本という3つのレベルで考察したものである。



今日、国連をはじめとする国際機関の「民営化」によって、「説明権力」または「問題設定権力」は、選挙によってえられたエリートですらない、一部の私的エリートによって担われるようになっている。本書に見るように、「文化的権利」「人権の普遍性」「法の支配」「市民社会」といった問題設定が、彼らの利益実現のために行われている。嘆くべきことは、被支配者であるはずの国際的な人権保護団体、法律家、研究者、市民が、与えられた問題設定に対して、なぜそのような問題が設定されねばならないのかという疑問を抱かないまま、つまり、問題設定自体を問題視しないまま、与えられた問題設定に乗っかって議論してしまうことである。その結果、たとえば、「人権の普遍性」や「市民社会」といった問題設定に対して、市民の側が、自分たちの理想を投影して、ロマンチックな事実を構築してしまい、それが結果として、問題の所在を隠ぺいし、批判対象である支配側エリートの利益に進んで貢献してしまうことである。こうした状況を、筆者は「知的ロマン主義状況」と呼ぶ。支配エリートの「問題設定権力」を、被支配者であ

る市民の側の「知的ロマン主義状況」が補強してしまっているのである。

第2部「フランス・カナダにおけるダイナミズム」と第3部「日本におけるダイナミズム」の考察は、比較対照して、それぞれの国の人権保護に対する政府の姿勢の違いを明らかにする。つまり、前者においては、人権保護のための政府の取り組みがますます進展してきているのに対して、

後者においては、その逆に、国連からの勧告に耳も傾けることなく、後退している状況が対比される。その違いの最も大きな原因は、「どういう社会または国家を想定するかという問題」、より狭い意味では国家論の違いである。西欧の国家観は個人を尊重する社会契約論に基づいているのに対して、日本の国家論は、その反対の滅私奉公である。よって、本書によって、両者の対比を鮮明にし、日本の今後の課題を明らかにする。

# 大阪産業大学アジア共同体研究センター (ACRC) (編) 新型コロナウイルスと経済社会—日本、アジア、世界—

経済学部 経済学科 教授 齋藤 立滋

大阪産業大学アジア共同体研究センター (Asian Community Research Center, ACRC)は、2005年4月にスタートした研究プロジェクト「アジアの経済統合とそれがEU型共同体に発展する可能性に関する学際的、国際的共同研究」をきっかけに設立された組織である。このプロジェクトは文部科学省の「平成17年度私立大学学術研究高度化推進事業」の「オープンリサーチセンター事業」に採択され、ACRCは2010年まで海外の大学や研究機関とアジアにEU型共同体を設立することの可能性と問題点について共同研究をおこなってきた。本論文集は、2020、2021年度のACRCの活動状況を報告するとともに、2021年12月に開催された国際シンポジウム「新型コロナウイルスと経済社会—日本、アジア、世界—」の報告論文集である。

ACRCが取り組んでいる大きな研究テーマは、「アジアの多元性のもとで国際協調を達成するにはいかなる枠組みが必要か」という問いであり、この大きな問いにつながるアジア諸地域の実相、諸地域間の関係の研究をおこなってきた。

そこへ思いもかけない出来事が世界中を席卷した。新型コロナウイルス(SARS-CoV2)による新型コロナウイルス感染症の世界的流行である。2020年1月30日、WHO(世界保健機関)は、新型コロナウイルス感染症の世界的流行に対し、「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態(PHEIC)」を宣言した。大学の研究・教育活動も、緊急事態宣言の発出による外出自粛、3密回避などにより、対面での活動が自由にできなくなった。2020年度のACRCの研究活動も、感染予防対策として国際シンポジウムの開催を対面からオンライン方式に切り替え、「コロナ後の国際通商秩序と日本の歩むべき道」というテーマで開催した。

2020年度シンポジウムでは、国際通商秩序の変化と関連する以下の3つの視点から、専門家に講演をお願いした。

## 1. 米国の通商政策の変化



## 2. 米中の覇権争いによる分断の可能性

## 3. コロナ禍の米中経済戦争への影響と今後の国際通商秩序

そして、提供していただいた情報にもとづき、質疑応答を行ったうえで、コロナ禍が収束した後における国際通商秩序の変化の方向と、その中で日本が歩むべき道について、参加者一同が考え認識を高めようというのが、このシンポジウムの目的であった。

2021年度の研究活動も、対面を避けながらの日々が続く中、国際シンポジウム「新型コロナウイルスと経済社会—日本、アジア、世界—」を開催した。2019年末より、新型コロナウイルスが世界中に猛威をふるい、感染者が止まらない状況が続いている。世界各国は、人々を感染の脅威から守るべく、都市封鎖(ロックダウン)や人流(人々の移動)を制限する経済社会規制を実行してきた。それが、一時的な不況を発生させ、人々にウイルスだけでなく、経済的な不安という二重の不安をもたらした。従来、日本が経験してきた様々な災害による一時的な不況や、アジア・

世界各国が経験してきた9・11テロやリーマンショックによる一時的不況とは違う不況と不安が我々の未来を不透明にしている。この新型コロナウイルスによる経済社会

のこれまでの動向を振り返り、感染が収束した先に見える将来の展望を示すのが、このシンポジウムの目的であった。



▲令和4年度 写真・イラストコンテスト(写真部門)応募作品  
『夏の小路』  
川端 健斗(工学部 機械工学科)

---

# 学会報告

---



学会報告

Report of the Academic Society

令和4年度 写真・イラストコンテスト(写真部門)応募作品  
「伏見十石舟」  
岡本 大誠(経済学部 経済学科)

# 令和4年度 年次報告

令和4年度 常任委員長 村田 好哉

大阪産業大学学会は、その会則にあるように「学術・研究・教育の発展および普及に寄与し、あわせて研究助成等を図ること」を目的としています。そのため例年は『大阪産業大学論集』や『大阪産業大学学会報』を発行し、学術講演会の開催、研究会・シンポジウム等の補助や、学生会員の研究教育活動の助成、海外留学の助成等の事業、さらには主に学生会員を対象とする各種コンテストや様々な学外見学会を行っています。

しかし新型コロナウイルス感染症の蔓延という事態を受けて、令和4年度の大学は昨年度に引き続いて、入学式、授業の実施方法、学生の課外活動等様々な面で従来とは異なった対応を迫られました。大学学会の活動についても新型コロナウイルス感染症の状況を考慮しながら随時変更を加えて、いわば手探りでの活動となりました。昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、学生会員の学会活動への参加拡大を目ざした企画事業のいくつかは変更や中止を余儀なくされましたが、今年度は感染状況が比較的落ち着いた後期(9月以降)に、見学会等の企画事業を実施することができました。具体的には、9月に「第2回岡山 ジーンズ作り体験会」、「関西国際空港見学会」や「第17回鈴鹿安全運転研修」を実施し、10月には「大阪 物作り体験会」、「第7回芸術鑑賞巡り(金沢)」を実施することができました。また昨年はオンライン形式での開催となった学術講演会ですが、今年は11月にアーティストAKI INOMATA氏による講演およびTalk Showを対面の形式で実施することができ、多くの教職員および学生会員の参加がありました。

企画事業では、ウェブ応募が可能な学会コンテストを開催しています。このうち「ぶんかくコンテスト」には長編3件の応募があり、「写真・イラストコンテスト」には写真

39件、イラストデザイン5件の応募があり、「見学会プランニングコンテスト」には6件の応募がありました。

助成事業としては、出版助成をほぼ予定通り進めることができました。出版助成の申請は4件で、その内訳は商業出版の単著3件、非商業出版1件となっています。

このほか、学生の卒業論文集に発行援助金を支給し、デザイン工学部建築・環境デザイン学科の優秀卒業研究展・修士研究展や、経営学部経営学科のデニムに関わる職場見学への助成を行いました。例年行われている国際交流課の海外語学研修は今年度もオンラインで実施され、これに補助を行いました。あわせて学生の海外留学にも6件(短期4名、長期2名)の補助を行う予定です。

昨年度は学生会員に関連した事業のいくつかについては、残念ながら計画変更や中止を余儀なくされてしまいましたが、今年度の学会活動は、『大阪産業大学論集』『大阪産業大学学会報』の発行、出版助成、見学会、講演会などについて、ほぼ当初の計画通り実施できました。次年度につきましても新型コロナウイルスの感染状況に留意しつつ、計画通り実施できることを願っております。

最後になってしまいましたが、通常とは異なった状況のなか、今年度の学会活動を支えていただいた常任委員の先生方、とくにチーフ会メンバーである編集委員長の藤岡芳郎先生(経営学部)、企画委員長の笹岡敬先生(デザイン工学部)、法務委員長の齋藤立滋先生(経済学部)、財務委員長の塩見剛一先生(全学教育機構)、広報委員長の部谷学先生(工学部)、さらに幹事の産業研究所事務室の伊藤治尚事務長、学会事務局の松村泰子さん、奥田いづみさんのご協力とご尽力に深く感謝いたします。

(国際学部 教授)

# 令和4年度 学会活動報告

## 【評議員会】

|                      |       |  |
|----------------------|-------|--|
| 第1回評議員会<br>(オンライン開催) | 6月21日 | 議題①令和4年度学会行事予定について<br>②令和3年度会計報告<br>③令和3年度会計監査委員報告<br>④令和4年度予算(案)について<br>⑤令和4年度各委員会の課題<br>⑥その他                                       |
| 第2回評議員会<br>(オンライン開催) | 3月23日 | 議題①令和4年度活動報告<br>②令和5年度チーフ会人事について<br>③令和5年度活動方針について<br>④会則・規程集改正(案)について<br>⑤規程の追加について<br>⑥令和5年度学会予算(案)について<br>⑦令和5年度行事予定表について<br>⑧その他 |

## 【常任委員会】

|                    |       |  |
|--------------------|-------|--|
| 常任委員会<br>(オンライン開催) | 2月21日 | 議題①学会財務申し送りについて<br>②令和4年度常任委員から令和5年度常任委員へ引継資料(内規)について<br>③評議員会について |
|--------------------|-------|--|

## 【出版助成審査委員会】

|                        |       |                   |
|------------------------|-------|-------------------|
| 出版助成審査委員会<br>(オンライン開催) | 9月20日 | 学術研究書出版助成申請に関する審査 |
|------------------------|-------|-------------------|

## 【会計監査】

- 5月 9日 令和3年度外部会計監査
- 5月30日 令和3年度内部会計監査

## 【チーフ会】

|         |                   |          |                   |
|---------|-------------------|----------|-------------------|
| 第1回チーフ会 | 4月19日<br>オンライン開催  | 第7回チーフ会  | 11月22日<br>オンライン開催 |
| 第2回チーフ会 | メール審議             | 第8回チーフ会  | 12月20日<br>オンライン開催 |
| 第3回チーフ会 | 6月 7日<br>オンライン開催  | 第9回チーフ会  | 1月31日<br>オンライン開催  |
| 第4回チーフ会 | 7月19日<br>オンライン開催  | 第10回チーフ会 | 2月21日<br>オンライン開催  |
| 第5回チーフ会 | 9月20日<br>オンライン開催  | 第11回チーフ会 | 3月 7日<br>オンライン開催  |
| 第6回チーフ会 | 10月18日<br>オンライン開催 |          |                   |

## 【編集委員会】

|          |                  |          |                   |
|----------|------------------|----------|-------------------|
| 第1回編集委員会 | 4月19日<br>オンライン開催 | 第6回編集委員会 | 10月18日<br>オンライン開催 |
| 第2回編集委員会 | 5月24日<br>オンライン開催 | 第7回編集委員会 | 11月22日<br>オンライン開催 |
| 第3回編集委員会 | 6月 7日<br>オンライン開催 | 第8回編集委員会 | 1月31日<br>オンライン開催  |
| 第4回編集委員会 | 7月19日<br>オンライン開催 | 第9回編集委員会 | 休会                |
| 第5回編集委員会 | 9月20日<br>オンライン開催 |          |                   |

## 【令和4年度発行論集・学会報】

| 種 別   | 分 野      | 巻 号 数                 | 備 考      |
|-------|----------|-----------------------|----------|
| 論 集   | 経営論集     | 23巻2・3合併号、24巻1号、24巻2号 | 年3回 原稿募集 |
|       | 経済論集     | 24巻1号、24巻2号           | 年3回 原稿募集 |
|       | 人文・社会科学編 | 45、46、47              | 年3回 原稿募集 |
|       | 自然科学編    | 133                   | 年1回 原稿募集 |
|       | 人間環境論集   | 22                    | 年1回 原稿募集 |
| 学 会 報 |          | 58                    | 年1回 発行   |

## 【企画委員会】

|          |                   |          |                    |
|----------|-------------------|----------|--------------------|
| 第1回企画委員会 | 4月19日<br>オンライン開催  | 第6回企画委員会 | 10月18日<br>ハイブリッド開催 |
| 第2回企画委員会 | 5月24日             | 第7回企画委員会 | 11月22日<br>ハイブリッド開催 |
| 第3回企画委員会 | メール審議             | 第8回企画委員会 | 1月31日<br>ハイブリッド開催  |
| 第4回企画委員会 | 7月19日<br>ハイブリッド開催 | 第9回企画委員会 | 休会                 |
| 第5回企画委員会 | 9月20日<br>ハイブリッド開催 |          |                    |

## 【企画事業】

### ◆学会コンテスト

第23回 ふんかくコンテスト

第 7 回 写真・イラストコンテスト

第 5 回 見学会プランニングコンテスト

### ◆第 2 回 岡山 ジーンズ作り体験会 9月7日

ジーンズ作り体験、岡山後楽園散策

### ◆関西国際空港見学会 9月12日

海上保安庁・保安区域の見学

### ◆第17回 鈴鹿安全運転研修 9月15日

鈴鹿サーキット交通教育センター研修

### ◆大阪 物作り体験会 10月28日

食品サンプル・オリジナルカップヌードル作り体験、水陸両用バスツアー

- ◆第7回 芸術鑑賞巡り(金沢) 10月31日～11月1日(1泊2日)  
金沢21世紀美術館見学、伝統工芸体験(金箔貼)、兼六園散策
- ◆講演会 AKI INOMATA Talk Show「生き物とつくるアート」 11月29日

### <後援>

- ◆活動への助成
  - ・2月 8日～2月 9日 経営学部 経営学科 デニムに関わる職場見学への助成
  - ・2月10日～2月13日 デザイン工学部 建築・環境デザイン学科 優秀卒業研究展 修士研究展2023への助成

### 【各種助成】

- ◆海外留学等に関する助成  
令和4年度 海外語学研修(オンライン)および海外留学をした学生への助成
- ◆出版等に関する助成  
令和4年度 学術研究書出版助成(商業出版3件、非商業出版1件)、卒業論文集等発行援助
- ◆学生表彰  
在学中に学術・研究および課外活動において特に顕著な成果をあげるなど、他の模範と認められる学生(所属団体を含む。)に対して、卒業時に表彰

### 【広報】

適時 webサイト更新

### 【法務】

規程改正の検討、規程の追加

### 【財務】

毎月の学会会計処理(事務局)後に伝票の確認および預金通帳残高との照合(本会計)

### 【大阪産業大学学会会員数一覧】

(人)

|              | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 |
|--------------|-------|-------|-------|-------|
| 学生会員(院生)     | 121   | 106   | 103   | 113   |
| // (大学生)     | 7,766 | 7,889 | 7,630 | 7,423 |
| 正会員(専任教員)    | 209   | 207   | 208   | 212   |
| 特別会員         | 1     | 1     | 1     | 2     |
| 準会員(非常勤・卒業生) | 22    | 26    | 26    | 22    |
| 名誉会員         | 16    | 14    | 13    | 13    |
| 賛助会員         | 2     | 3     | 3     | 4     |
| 計            | 8,137 | 8,246 | 7,984 | 7,789 |

12月末現在の会員数

# 令和3年度 学会会計報告 (令和3年4月1日～令和4年3月31日)

令和3年度 財務委員長 塩見 剛一

令和3年度における大阪産業大学学会の収支決算を、下掲の表のとおりご報告いたします。

収入の部では、前年度に比べて学会費等の小計が約36万円の減収となりました。これは、学生総数の微減によるものです。

支出の部では、前年度に比べて支出小計が約608万円の増加となりました。増加の一因として、論集発行の遅れがあります。令和3年3月付の論集を、元々は前年度(令和2年度)内の予算での支出として予定していたところ、論集発行の遅れにより、令和3年度会計で処理することとなりましたので、論集発行費の予算額が増加しました。そのため、前年度の論集発行費と比較しますと、決算額で約407万円の増加となっています。

それに加えて、前年度はコロナ禍の影響によって中止となった、学会イベントの見学会や学会主催の講演会を今年度は概ね開催することができましたため、講演会費が前年度の0円から約57万円の増加、イベント費は約114万円の増加、諸活動費は約27万円の増加となりました。

また、出版助成は前年度に比べて約78万円増加しました。これは、前年度の学術研究書の助成3件のうち、2件が共著および編著であったため、申請者の担当箇所のみ助成費用が支出されたのに対し、令和3年度は助成対象となった3件の学術研究書の全てが単著だったことが影響しています。

その一方で、海外留学補助金は、オンライン化や留学の見合わせ等により、約102万円の減少となっています。

令和3年度におきましても、各種見学会や学会コンテストなどのイベント、出版助成、海外留学補助など、多岐にわたる助成を積極的に行いました。次年度繰越金は、一見しますと前年度より約2,265万円増加となっておりますが、収入の部に記載がございますように、今回は約3,036万円の財政安定化基金を繰り戻し、学会会計に含めています。そのため「繰り戻し金」を除きますと、次年度繰越金は前年度に比べ約771万円減少しています。

今後も、会員の皆様に少しでも有益な会費還元ができますよう、一層努めてまいります。

## 【収入の部】

(単位：円)

| 科 目       | 本年度予算額     | 本年度決算額     | 増 減        |
|-----------|------------|------------|------------|
| 学会費(学生)   | 18,240,000 | 17,714,400 | △ 525,600  |
| 〃 (正・準)   | 1,122,000  | 1,188,000  | 66,000     |
| 受取利息      | 1,500      | 207        | △ 1,293    |
| 雑収入       | 220,000    | 39,760     | △ 180,240  |
| (小 計)     | 19,583,500 | 18,942,367 | △ 641,133  |
| 前年度繰越金    | 20,977,609 | 20,977,609 | 0          |
| 財政安定化基金繰戻 | 0          | 30,362,689 | 30,362,689 |
| 合 計       | 40,561,109 | 70,282,665 | 29,721,556 |

## 【支出の部】

(単位：円)

| 科 目         | 本年度予算額     | 本年度決算額     | 増 減         |
|-------------|------------|------------|-------------|
| 論集発行費       | 6,500,000  | 6,455,231  | △ 44,769    |
| 学会報発行費      | 1,500,000  | 1,362,150  | △ 137,850   |
| 講演会費        | 800,000    | 575,251    | △ 224,749   |
| イベント費       | 2,550,000  | 1,374,517  | △ 1,175,483 |
| 諸活動費        | 1,000,000  | 472,500    | △ 527,500   |
| 海外留学補助金     | 1,500,000  | 176,205    | △ 1,323,795 |
| 出版助成        | 8,500,000  | 5,313,040  | △ 3,186,960 |
| ウェブサイト保守点検費 | 350,000    | 278,078    | △ 71,922    |
| 人件費         | 5,900,000  | 5,954,379  | 54,379      |
| 渉外慶弔費       | 200,000    | 140,000    | △ 60,000    |
| 印刷製本費       | 250,000    | 107,356    | △ 142,644   |
| 通信輸送費       | 250,000    | 96,915     | △ 153,085   |
| 学生表彰費       | 1,800,000  | 1,657,009  | △ 142,991   |
| 法定福利費       | 950,000    | 898,390    | △ 51,610    |
| 福利厚生費       | 15,000     | 14,329     | △ 671       |
| 支払手数料       | 200,000    | 237,479    | 37,479      |
| その他         | 200,000    | 42,917     | △ 157,083   |
| (小 計)       | 32,465,000 | 25,155,746 | △ 7,309,254 |
| 周年記念事業繰入金   | 1,500,000  | 1,500,000  | 0           |
| 次年度繰越金      | 6,596,109  | 43,626,919 | 37,030,810  |
| 合 計         | 40,561,109 | 70,282,665 | 29,721,556  |

# 編集後記

学会報58のテーマは『不確実な時代を生き抜く力』です。辞書で不確実とは「確実でないこと、はっきりしていないこと、また、そのさま」と解説されています(Weblio辞書)。不確実性はVolatility(変動性)、Uncertainty(不確実性)、Complexity(複雑性)、Ambiguity(曖昧性)の頭文字をとってVUCAと呼ばれ、未来の予測が困難な状況を表す言葉です。私が初めて不確実の言葉を意識したのはガルブレイスが1978年に執筆した『不確実性の時代』を読んだ時です。この本は前世紀に確実と思われていたこと(説明できたことだから正しい)が、当てはまらない時代(説明できないから不確実)になったという内容だったと思います。おそらく、いつの時代も不確実な時代なのだと思います。

では、不確実なことを所与とした時代を生き抜く力とはどのようなことでしょうか。不確実とは「安定・不安定」「正しい・正しくない」「無駄・無駄でない」などの二項対立的に説明できないカオスの状態です。私たちは先が見通せなく、環境が安定しないので不安になることもあります。一方で、環境変化に適応することで自身の能力開発ができます。また、正解のない時代だからこそ好奇心を持って探索する、研究することで知的創造につながります。高度な知識や新技術を軸に、革新的、創造的な経営を展開している知識集約型の小企業をベンチャービジネスと呼びます(Weblio辞書)。ベンチャーの語源はアドベンチャーの「冒険」です。

探検や旅行は未知との出会いを楽しむことです。未知との出会いは不確実なことですが楽しさやワクワク感の源泉です。大学はこのような楽しさやワクワク感を提供する場だと思います。学会報58では不確実な時代だからこそ重要な根源的な力について考えたいと思います。このほかに、学会主催見学会、コンテスト報告、講演会報告、留学記、学術研究書出版助成本の概要などを掲載しています。

最後になりますが、本号の編集・発刊にご協力いただいた編集委員の方々、またとくに精力的に編集の任にあたっていたいただきました学会事務局に深く感謝申し上げます。

(令和4年度編集委員長：藤岡 芳郎)

All rights reserved. No part of this publication may be reproduced or transmitted, in any form or by any means, without prior permission in writing from the publisher.

大阪産業大学学会報 第58号 非売品

発行日 2023(令和5)年3月3日  
発行 大阪産業大学学会  
〒574-0013  
大阪府大東市中垣内3丁目1-1  
TEL (072) 875-3001 (大代)  
FAX (072) 875-6551  
印刷 友野印刷株式会社  
〒700-0035  
岡山市北区高柳西町1-23  
TEL (086) 255-1101  
FAX (086) 253-2965

Academic Society  
of Osaka Sangyo University

